

ハイパー
huper DVR 2400
V1.5

ユーザーズガイド

日本語版マニュアル制作
株式会社グリーンフラッシュ ジャパン

ご使用の前に必ずお読みください

本製品で記録した録画物・実演・展示物等は、個人として楽しむ等の他は、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

本書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

本製品の内容および本書の記載事項は、改良のため予告なく変更する場合があります。

本書の内容や本製品について許可なく複製、転載することは禁じられています。

本製品および本書の一部または全部を第三者に譲渡、貸与、内容の変更をすることはできません。

免責事項

本製品を使用することで第三者に映像を見られたり、リモート操作される可能性があります。本製品使用により、生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切の責任を負いません。

本書で説明された以外の使い方、本製品以外の接続機器との組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して弊社は一切の責任を負いません。

本製品を使用することにより、外部からの侵入者を全て感知、監視対象の変化等を全て感知、防止できるものではありません。本製品を使用したにもかかわらず、使用者ならびに監視対象に被害を及ぼすことがあっても、弊社は一切の責任を負いません。

本製品および本機器の使用に起因するいかなる事態に対しても、弊社は一切の責任を負いません。

第1章	はじめに	1
第2章	動作環境	2
第3章	インストール手順	3
	huperDVRのインストール	3
	huperDVRのアンインストール	5
第4章	DVRサーバー	6
	起動方法	6
	DVRサーバーメイン画面	7
	分割画面	7
	画面の切り替え	8
	カメラパネル／入出力デバイスインジケータ	8
	カメラインジケータ	9
	カメラ操作パネル	9
	通話設定	15
	レイアウトモード	15
	スナップショットでリアルタイムの映像をキャプチャ	17
	DVRサーバーの各種設定	18
	設定>>全般	18
	設定>>カメラ	23
	設定>>ビューア	31
	設定>>デバイス	32
	設定>>スケジュール	34
	設定>>オーディオ	37
	設定>>ユーザー	38
	ログの閲覧と保存メディア情報	40
第5章	レコードプレイヤー	42
	起動方法	42
	全ての録画データを検索	42
	イベントタイプによる検索	43
	データベースの選択	44
	録画データの再生	44
	録画日の選択	44
	録画データの検索・再生	45
	メモリーボタン	46

レコードプレイヤーの設定	46
ナビゲーションパネル	47
再生画面の画像拡大	48
再生画面の動作感知	48
ファイル形式での保存	49
スナップショットで画像をキャプチャ	50
第6章 バックアップスケジュール	51
起動方法	51
バックアップスケジュールメイン画面	51
手動バックアップの設定	52
自動バックアップの設定	53
第7章 リモートビューア	54
起動方法	54
固定IP/ドメイン名指定による起動	54
インストールCDよりプログラムをインストールして起動	58
ブロードバンドルータを使用している場合	59
リモートビューアメイン画面	60
分割画面	60
PTZカメラコントロールパネル	61
カメラ接続の変更	62
画面切り替えボタン	62
録画履歴	62
音声設定	63
DVRサーバーが複数ある場合	64
リモートコントロール機能	65
携帯電話からのモニタリング	66
第8章 リモートレコードプレイヤー	67
起動方法	67
メイン画面	67
録画データのダウンロードおよび再生	68
ポート設定	68
ダウンロード	68

ダウンロード～再生手順	69
ナビゲーションパネル	70
スナップショット	71
第9章 Q & A	72
付録 LiveTag.iniの設定について	79

第1章 はじめに

この度は『HyperDVR2400 V1.5』(以下、ハイパーDVR)をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

ハイパーDVRは、自宅、店舗、オフィス、学校等での使用に適した遠隔監視デジタルビデオ録画システムです。付属の専用キャプチャカードをPCに設置し、カメラを接続後、本ソフトウェアをインストールすることによって、室内や室外等をモニタリングすることができ、同時にデジタル録画を行うこともできます。ハイパーDVRは、以下の5つのプログラムを含んでいます。

■DVRサーバー(メインプログラム)

DVRサーバーでは、ビデオカメラやセンサーを最大16台まで同時にリアルタイムでモニターすることができ、動作感知時に警報を鳴らすことや、指定した連絡先へ通報するように設定することができます。同時に、自動的に録画を実行するように設定することや、警報アラーム、メール、電話等、通知方法を選択することもできます。全てのカメラ／センサーに対する設定を同じにすることや、それぞれ異なる設定にすることも可能です。

■レコードプレイヤー(録画データ再生プログラム)

レコードプレイヤーでは、DVRサーバーで録画したデータを検索して再生することができます。データベースに保存したデジタル録画データをタイプ別に検索し、再生することができます。最大16個のデータを同時に再生することもできます。

■バックアップスケジュール(録画データバックアッププログラム)

バックアップスケジュールでは、データベースに保存した録画データを別のメディアにバックアップを取ることができます。バックアップは手動で行うか、あるいは指定した保存場所に自動的にバックアップを行うように初期設定することができます。

■リモートビューア(リモート監視プログラム)

リモートビューアをインストールするか、もしくはWebブラウザを通して、離れた場所にあるDVRサーバーにアクセスすることで、DVRサーバーの映像をリアルタイムでモニタリングすることや、録画／再生、PTZカメラの制御等を行うことができます。また、携帯電話からDVRサーバーをインストールしているパソコンにアクセスして、静止画像でのモニタリングを行うことができるように設定することも可能です。

■リモートレコードプレイヤー(リモート録画再生プログラム)

リモートレコードプレイヤーをインストールすると、離れた場所にあるDVRサーバーから録画したデータを、ダウンロードすることができるようになります。ダウンロードしたデータは、本プログラムを使用して再生することができます。

- ・ Windows 2000 の場合、Directx8.1 のインストールが必要です。
- ・ システムドライブ(ハイパーDVRのインストール先のドライブ)には、ハイパーDVRインストール後に500MB以上の空き領域が必要です。空き領域が不十分の場合、動作が不安定になる可能性があります。
- ・ ハイパーDVRをインストールしたパソコンは、ハイパーDVR専用機としてご使用して頂くことをお勧め致します。

- ・ ハイパーDVRをインストールしたパソコンはOSを起動すると、DVRサーバーも同時に起動するように設定されています。
- ・ 設定したユーザーID、パスワードはお忘れにならない様ご注意ください。

※以降、画面表示した例は、基本的に WindowsXP での画面を使用しています。

◆「hyper」は、英語の「hyper(ハイパー)」という言葉の語源となっているギリシャ語です。◆

第2章 動作環境

対応OS	: Windows2000/XP
対応機種	: DOS/V 互換機
CPU	: PentiumIV以上
メモリ	: 256MB 以上(512MB 以上推奨)
ハードディスク	: 40GB 以上(7200RPM 推奨)
モニター解像度	: 1024 × 768(SVGA)以上
ビデオカード	: AGP/DirectDraw 対応/オンボード VRAM 16MB 以上 (ATI 社製推奨)
サウンドカード	: 全二重 8 ビットサウンドカード
ビデオフォーマット	: NTSC/PAL
プロトコル	: TCP/IP
LANカード	: 10BASE-T/100BASE-TX 以上
ブラウザ	: Internet Explorer 5.5 以上
回線実行速度	: 300Kbps 以上(フレームレート5fps × 4画面表示の場合)
ネットワーク接続	: 56K モデム(電話・FAX 等による通知を行う場合)

第3章 インストール手順

huperDVRのインストールを行うには

1. キャプチャカードの取り付け
2. カメラの接続
3. huperDVRのインストール

の手順で行います。1、2については別紙を御覧下さい。

huperDVRのインストール

カメラの接続終了後、インストールCDをCD-ROMドライブにセットして、huperDVRのインストールを、以降の手順で行って下さい。

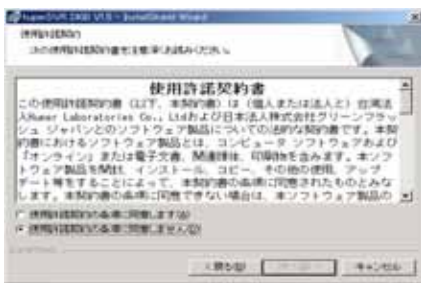
- ①[huperDVR 2400]というラベルのついたCD-ROMをCD-ROMドライブに入れて下さい。
- ②Microsoft DirectX 8.1 以降がインストールされてない場合は、初めにインストールして下さい。
- ③「huperDVR のインストール」をクリックして下さい。



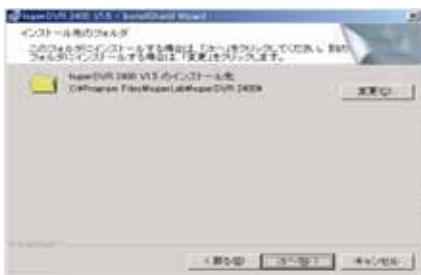
- ④以下の画面が表示されたら、「次へ」をクリックして下さい。



- ⑤使用許諾契約書が表示されます。同意の上、「同意します」を選択し、「次へ」をクリックして下さい。



- ⑥インストール先を変更する場合は、「変更」ボタンをクリックして、インストール先を指定してから「次へ」をクリックして下さい。



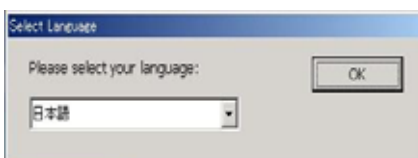
- ⑦「インストール」をクリックして下さい。インストールを開始します。



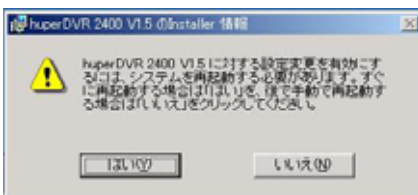
⑧「完了」をクリックして下さい。



⑨言語の選択行います。日本語を選択し「OK」をクリックして下さい。



⑩「はい」をクリックして下さい。再起動後、ハイパーDVRを起動することができるようになります。



huperDVRのアンインストール


huperDVRをアンインストールする場合は、[スタート]→[プログラム]→[huperDVR 2400 Vxxx]から[アンインストール]をクリックして下さい。(xxxにはバージョン番号が入ります。)

第4章 DVRサーバー

DVRサーバーにログオンすると、設定したビデオカメラからの映像をリアルタイムで表示します。設定できるカメラは16個までで、センサーやアラーム等の入出力デバイスをモニターすることもできます。

起動方法

ハイパーDVRをインストールしたパソコンは、OSを起動するとDVRサーバーを自動的に起動するように設定されます。一度DVRサーバーを終了した後、再度起動する場合は、[スタート]→[プログラム(すべてのプログラム)]→[hyperDVR 2400 Vxxx]から[DVRサーバー]をクリックして実行することができます。(xxxにはバージョン番号が入ります。)

アクセスの制御を有効にしている場合(39ページを御覧下さい。)は、画面右下の  アイコンをクリックし、DVRサーバー ログオン画面が表示されたら、ユーザーID、パスワードを入力してログオンして下さい。この時、管理者以外のユーザーがプログラムを勝手に終了等しないようにするため、ログオン画面の「キャンセル」「×」ボタンは無効になっています。



DVRサーバーを最初に起動すると、ノンストップ録画を既に実行しています。インストール先を変更しないでハイパーDVRをインストールした場合、録画データは C:\Program Files\hyperLab\hyperDVR 2400\Data に保存されます。録画を停止する場合は、設定画面からカメラタブをクリックし、「録画を有効にする」のチェックを外して下さい。録画場所の変更に関しては、19ページの「監視ビデオ録画用の保存メディア」を御覧下さい。(録画場所を変更した後は、C:\Program Files\hyperLab\hyperDVR 2400\Data の内容は、削除しても構いません。)

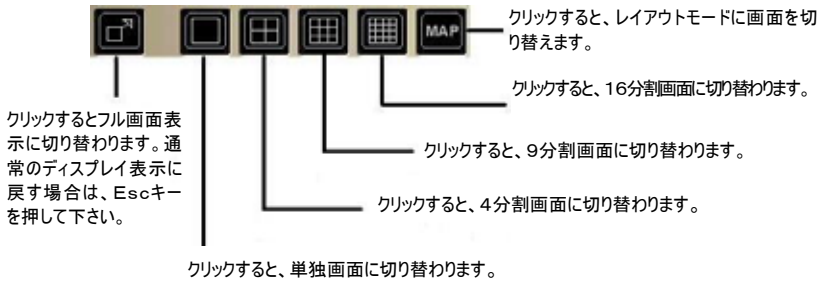
DVRサーバーメイン画面



分割画面

- ・ 分割画面ごとにカメラ番号、現在時刻等を表示することができます。
- ・ 分割画面はドラッグして他の場所へ移動することができます。
- ・ 分割画面表示時に、1つの分割画面をダブルクリックすると、隣接する3画面を含む大きさに画面サイズを拡大します。再度ダブルクリックすると元のサイズに戻ります。

画面の切り替え



カメラパネル／入出力デバイスインジケータ

DVRサーバーの画面下に表示されているカメラパネルの16個のボタンは、各カメラの番号順に割り当てられています。初期設定ではカメラパネルが表示されていますが、右側のボタンをクリックすると、入出力デバイスインジケータに切り替わります。

カメラパネル

数字ボタンはカメラ番号に対応しています。ボタンをクリックすると、対応するカメラからの画像を表示します。ここでカメラを1つ選択することを、シングルカメラモードと呼びます。



クリックすると、入出力デバイスインジケータに切り替わります。(以下の画面を参照して下さい。)

入出力デバイスインジケータ

接続しているセンサー、アラーム等のセキュリティ装置の状態を表示します。上段のインジケータは入力デバイスを表しています。下段は出力デバイスを表しています。緑色の場合、デバイスの接続を意味し、赤色の場合はデバイスが信号をDVRサーバーに送っていることを意味します。



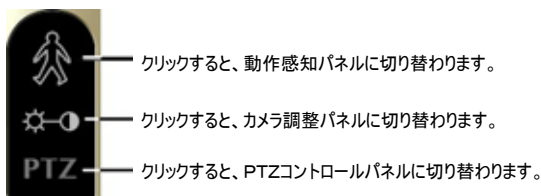
カメラインジケータ

カメラの状態を表示するインジケータです。



カメラ操作パネル

シングルカメラモード(カメラパネルでカメラを1つ選択)時のみ、以下の操作パネルからカメラの調整等を行うことができます。カメラ操作パネルは、[動作感知パネル]、[カメラ調整パネル]、[PTZコントロールパネル]を含みます。

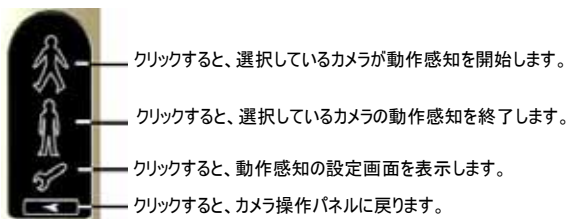


ログオンしたユーザー権限により、カメラ操作パネルを制御できない場合があります。以下は、ユーザー権限とカメラ操作パネルの制御可能／不可能の一覧です。(ユーザー権限の詳細については、39ページを御覧下さい。)

	○・・・可能		×・・・不可能	
	管理者	マネージャー	オペレーター	ユーザー
動作感知パネル	○	×	○	×
カメラ調整パネル	○	○	○	×
PTZコントロールパネル	○	○	○	×

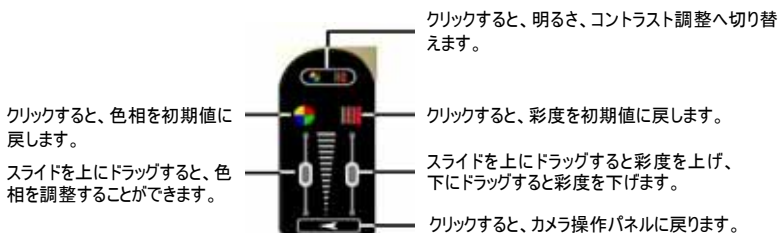
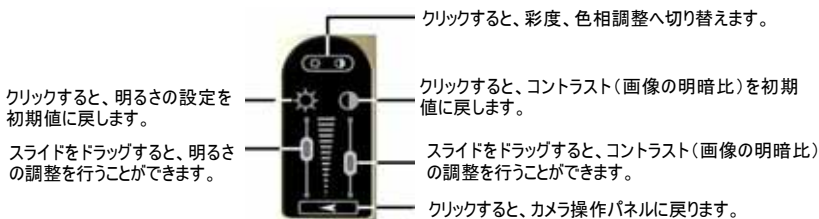
1. 動作感知パネル

手動での動作感知の開始／終了を実行することができます。



2. カメラ調整パネル

選択しているカメラの画質調整を行うことができます。調整は明るさとコントラストの調整と、彩度と色相の調整に切り替えることができます。



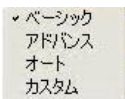
3. PTZコントロールパネル

選択しているカメラがPTZカメラの場合、PTZコントロールパネルに切り替えて(9ページ参照)、カメラの制御を行うことができます。パンチルト調整、ズーム機能だけではなく、スピードコントロール機能、アイリス、フォーカス調整、オートループ、オートパン等の制御も可能です。また、ジョイスティックやキーボードを使用してPTZカメラの制御もできます。PTZコントロールパネルは4つの操作モード(ベーシック、アドバンス、オート、カスタム)があり、以降でそれぞれモードについて説明致します。

①ベーシックモード

カメラ操作パネルで「PTZ」の文字をクリックすると、以下のPTZコントロールパネルがベーシックモードで表示されます。

クリックすると以下の画面が表示され、他のモードに変更することができます。



クリックするとパネルを閉じます。

クリックするとカメラを選択することができます。

上下左右4個の矢印ボタンをクリックすることで、カメラアングルを調節できます。「×」ボタンをクリックすると、動いているカメラを停止します。

数字のボタンは、カメラアングル／ポジションを格納するプリセットボタンです。クリックして2秒間ホールドすると、現在のカメラアングル／ポジションを格納します。

クリックすると、PTZ 設定画面を表示します。

上向きの矢印をクリックするとズームインし、下向きの矢印をクリックするとズームアウトします。真ん中の「●」ボタンをクリックするとズーム比率を初期値に戻します。

②アドバンスモード



クリックするとカメラを選択できます。

アイリス制御：ボタンは左から右へ「アイリスを開く」、「アイリスを絞る」、「オートアイリス」の順で並んでいます。

フォーカス制御：ボタンは左から右へ「近」、「遠」、「オートフォーカス」の順で並んでいます。

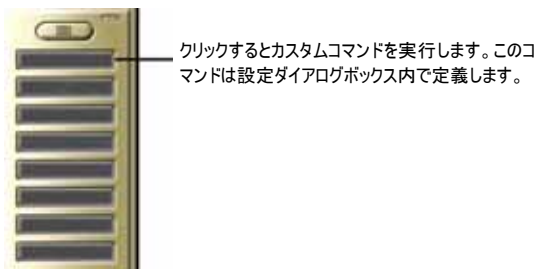
パンスピード制御：ボタンは左から右へ「スピードダウン」、「スピードアップ」、「ノーマルスピード」の順で並んでいます。

チルトスピード制御：ボタンは左から右へ「スピードダウン」、「スピードアップ」、「ノーマルスピード」の順で並んでいます。

③オートモード(オートパン、オートループ制御用)



④カスタムモード(オートパン、オートループ制御用)



PTZ設定画面

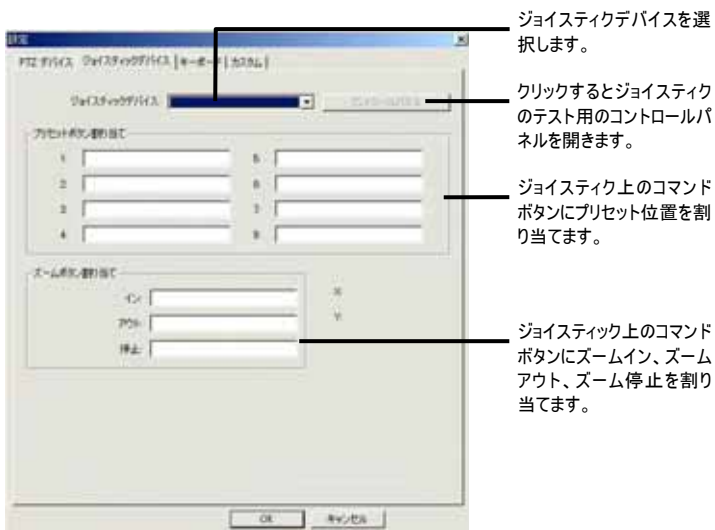
①PTZ デバイス設定

PTZカメラと通信を行うため、COMポートとPTZのプロトコルを選択して下さい。必ずPTZカメラのビデオケーブルに接続したキャプチャカードのチャンネルを選択して下さい。同じCOMポートに複数のPTZカメラを接続する場合は、各PTZカメラが独自のアドレスIDとなっていることを確認して下さい(アドレスIDはPTZカメラで定義しています)。



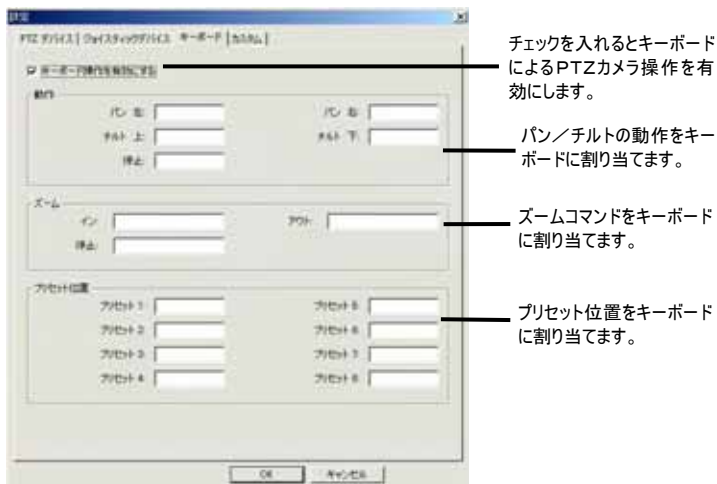
② ジョイスティック設定

ジョイスティックデバイスを使用してPTZカメラの動作を制御することができます。Windows との互換性のあるジョイスティックデバイスに対応しています。



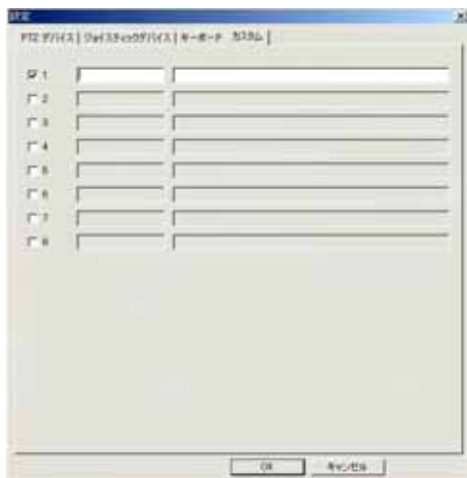
③キーボード設定

キーボードによるPTZカメラ操作を行うことができます。




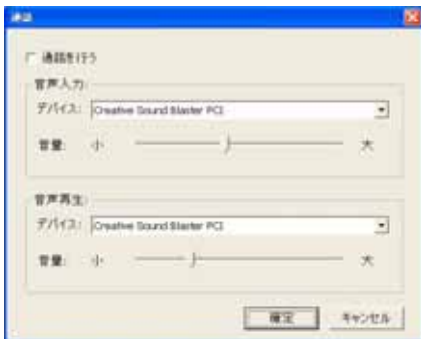
④カスタム設定

カスタムボタンにPTZ制御コマンドを割り当てます。割り当て用のカスタムボタンは全部で8個あります。コマンド名と一致するコマンドを指定して下さい。



通話設定

通話設定ボタンをクリックすると、以下の通話設定画面が表示され、DVRサーバーとリモートビューア間の通話に関する設定を行うことができます。



通話を行う

クリックしてチェックを入れると、DVRサーバーとリモートビューアとの通話を有効にします。

音声入力

音声入力では、DVRサーバー側からの音声を入力するデバイスの選択と、音量の調整を行うことができます。


音声再生

音声再生では、リモートビューアからの音声を受信するデバイスの選択と、音量の調整を行うことができます。



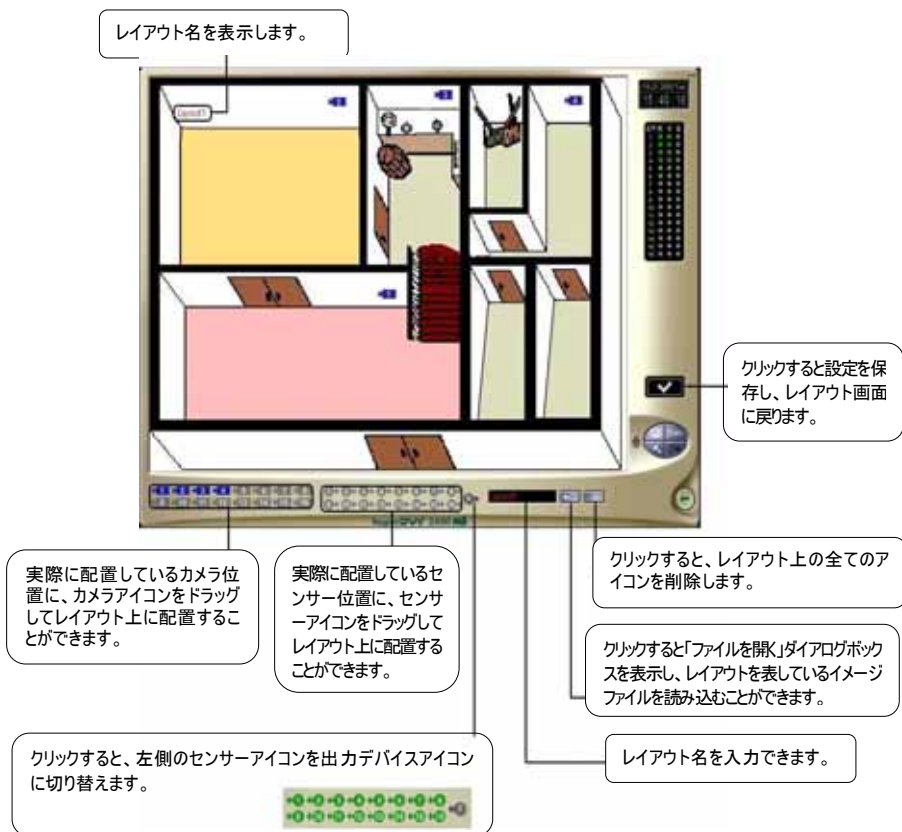
- ・ 使用するデバイスは、パソコンのオーディオデバイスをお勧めします。
- ・ 同じオーディオデバイスを使用する場合、通話の実行と音声録音は同時に行うことはできません。通話を行う場合は、オーディオ設定の音声録音(37ページを御覧ください。)で、通話に使用するオーディオデバイスの接続を無効にしてください。

レイアウトモード

- ・ カメラやセンサーを設定している場所を表示しているレイアウト画面を、ビットマップファイルで準備しておきます。レイアウトモードではこのファイルを読み込み、画面の上にビデオカメラやセンサーのアイコンを配置することができます。
- ・ イベントを感知した場合、対応するカメラアイコンがレイアウト画面上で点滅するため、どこで検出したのか一目でわかるようになっています。
- ・ レイアウトモードに切り替えるには、DVRサーバー画面下の ボタンをクリックします。

レイアウト編集モード

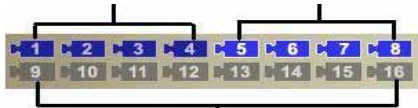
レイアウト編集モードでは、実際にカメラ等を設置している場所に、読み込んだレイアウト画面の対応する場所に、カメラ／センサー／外部デバイスアイコンを配置することができます。



カメラアイコンは3種類の色によって、それぞれ違う意味を表しています。

紺色のアイコンは、既にレイアウト上にアイコンを設置していることを表しています。

青いアイコンは、レイアウト上にまだアイコンを設置していないことを表しています。



灰色のアイコンは、カメラが接続されていないことを表しています。

レイアウト画面

レイアウトに各アイコンを配置後、イベントを感知した場合、アイコンが点滅します。カメラアイコンが点滅している場合、クリックするとカメラからの画像を、単独画面で表示します。




スナップショットでリアルタイムの映像をキャプチャ

カメラの視界内に異常や侵入者等を発見した場合、画面上で右クリックしてスナップショットを撮影することができます。撮影したスナップショットは照会用にイメージファイルに保存することや、印刷することも可能です。また、品質を高めるために5つのイメージ調整機能とデジタルズーム機能を搭載しています。

- ① DVRサーバー上の画面を右クリックすると、「スナップショット」の文字が表示されますので、クリックして下さい。
- ② スナップショット画面が表示されます。
- ③ 撮影したスナップショットはJPEG、もしくはBMP形式のイメージファイルとして保存、印刷することができます。
- ④ 輝度、コントラスト、シャープネス、彩度、色相の5つの画像調整機能によって、画像品質を改善することができます。
- ⑤ キャプション表示を選択することができ、フォントの種類、サイズ、色を割り当てることも可能です。
- ⑥ サイズ変更機能により、撮影したスナップショットをデジタル・ズーム・イン／アウトすることができます。



DVRサーバーの各種設定

DVRサーバーの画面右の  アイコンをクリックすると、設定画面が表示され各種設定の変更を行うことができます。

設定 >> 全般

設定画面の全般タブをクリックすると、以降の各項目について設定を行うことができます。



サイト名

サイト名を表示します。名前を入力して変更することもできます。(初期設定は「ローカルサイト」になっています。)

リモートアクセス認可

離れた場所にあるパソコンからDVRサーバーをモニタリングする場合、チェックを入れ本オプションを有効にする必要があります。

監視ビデオ録画用の保存メディア

録画したデータをどこに保存するか設定した内容が、リストに表示されます。

場所

データ保存用に指定した保存場所を表示します。

容量

データ保存用に指定した保存場所全体の合計サイズを表示します。

使用容量

データ保存用に確保したディスク容量を表示します。

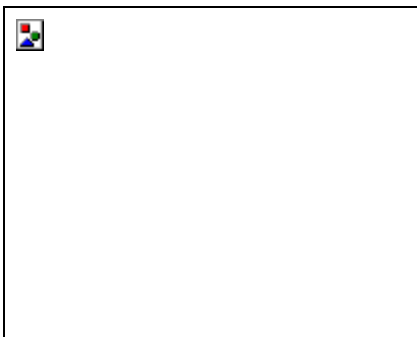
空き容量

データ保存用に指定した保存場所の空き容量を表示します。

指定したカメラ

指定した保存場所に録画を行うカメラ番号を表示します。

録画したデータをどこに保存するかを設定するには、「追加」ボタンをクリックして保存メディア追加の設定を行います。



場所

「参照」ボタンをクリックして、録画データの保存場所を指定します。

※保存場所にルートフォルダ(ドライブの1番上のフォルダ)を指定することはできません。

容量

データ保存用に指定した保存場所全体の合計サイズを表示します。

空き容量

データ保存用に指定した保存場所の現在の空き容量を表示します。

最大使用容量

データ保存用に確保するディスク容量を指定します。

カメラ

「全て選択」ボタンをクリックすると全てにチェックが入り、全カメラの録画データを同じフォルダに録画します。カメラごとにフォルダを分けて保存することも可能です。「全てクリア」ボタンをクリックすると、入っているチェックを全てクリアします。

指定した録画用の保存メディアを削除する場合は、削除する保存場所をクリックし選択してから「削除」ボタンを、修正する場合は修正する保存場所をクリックし選択してから、「修正」ボタンをクリックします。（修正時には、保存メディア修正画面が表示されます。）

ファイル割り当ての効率化

チェックを入れると、ディスクの断片化（フラグメント）を回避し、保存データを効率的に割り当てます。

自動上書き設定

自動上書きをクリックしてチェックを入れてから「設定」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。ここでは保留日数を設定するか、自動上書きモードに設定するかのどちらかを選択できます。



保留日数

データを上書きするまで、録画データを保留する日数（1～365日）を設定します。

自動上書きモード

自動上書きモードを有効にすると、割り当てた保存メディアの空き領域がなくなった時点で、録画データを自動的に上書きするようになります。

オリジナルの解像度で再生

分割画面に画像を表示する時、適合するよう画面をスケールする場合があります。VGA カードがスケール機能をサポートしていない場合、Windows がソフトウェア・スケールングを通してビデオのサイズを変更しますが、この場合 CPU に多くの負荷を掛けるため、ハードウェア・スケールングと比較して、スピードも遅くなります。スケールング機能がない VGA カードを使用して画像表示をスピードアップする場合は、「オリジナルの解像度で再生」にチェックを入れて、スケールングを無効にすることで対応します。

このオプション選択時は、以下の方法でビデオ画像を表示します。

- ・ フルスクリーンでの単独画面表示時のビデオ解像度は、640x480 に変更します。
- ・ フルスクリーンでの4分割画面表示時の全体のビデオ解像度は 640x480 に変更し、4分割の各画面の解像度は 320x240 です。
- ・ フルスクリーンでの9分割画面表示時の全体のビデオ解像度は、1024x768 に保ち、9分割の各画面の解像度は 320x240 です。

スムーズ表示

ハイパーDVR では、YUV という形式で色を表しています。一方 PC の画面は RGB という形式を使用しています。このため、再生時に YUV RGB 変換(色空間変換)が必要となります。VGA カードに色空間変換機能がある場合は、本オプションにチェックを入れることで、VGAカード側でこの変換を行い、パソコンのCPUの負担を軽減します。チェックを外すと、ソフトウェア側で色空間変換を行います。

Web サーバーを有効にする

チェックを入れるとDVRサーバーをWebサーバーとし、リアルタイムでリモートモニタリングができるようになります。インターネットを通してリモートモニタリングする場合は、映像を見るためのWebページ画面をダウンロードします。この場合、前述の「リモートアクセス認可」と共にチェックを入れる必要があります。本オプションのチェックを外すと、インターネットを通したモニタリングが出来ないように制限でき、リモート側のパソコンにリモートビューアのプログラムをインストールした場合のみ、モニタリングができるようになります。また、本オプションを有効にした場合、使用するTCPポート番号を指定できます。(デフォルトは80です。)



- ・ 本オプションの設定を変更した場合は、DVRサーバーを再起動する必要があります。
- ・ 指定するTCPポート番号は、他のアプリケーションによって使用されていない番号でなくてはなりません。

設定した日数後、自動的に再起動

チェックを入れ日数、時間を設定すると、設定した日数後の指定した時間にDVRサーバーをインストールしているコンピュータを、自動的に再起動します。

ダイナミックIPを使用

インターネットを通して外部からDVRサーバーをリモート監視する場合、DVRサーバーをインストールしているパソコンには、グローバルIPアドレスを割り当てている必要があります。(詳しくは第7章を御覧下さい。)お客様が、固定グローバルIPアドレスやドメイン名を取得していない場合、「ダイナミックIPを使用」にチェックを入れると、製造元の huperlab 社が提供しているダイナミックIPを、無料で使用することができます。「設定」ボタンをクリックすると以下の画面が表示されますので、初めにダイナミックIPに関する各設定を行って下さい。



ダイナミックIPサービスを利用する場合、携帯電話からのアクセスには対応していません。但し、NTTドコモの一部機種についてはアクセス可能であることを確認済みです。



ポート: TCP ポートの番号を設定します。(初期値の 18080 をそのまま使用して下さい。)
ダイナミックIPアドレス: list.huperlab.com と入力して下さい。
ユーザーID: リモートアクセス時に入力する、ユーザーIDを設定します。

パスワード:リモートアクセス時に入力する、パスワードを設定します。

レポート送信

「レポート」ボタンをクリックすると以下の画面が表示され、イベント録画を実行した結果をレポートで、メール送信するよう設定できます。

日間／週間／月間レポート

送信レポートを日間／週間／月間のうち、何れかを選択します。

イベント感知

レポートを報告するイベント録画の種類を選択します。

SMTPサーバー

SMTPサーバー名を入力して下さい。

メール差出人

差出人のメールアドレスを入力します。

メール宛先

送信先のメールアドレスを入力します。送信先が複数で、文字が収まらない場合は、メールアドレス間を「;」で区切って下さい。

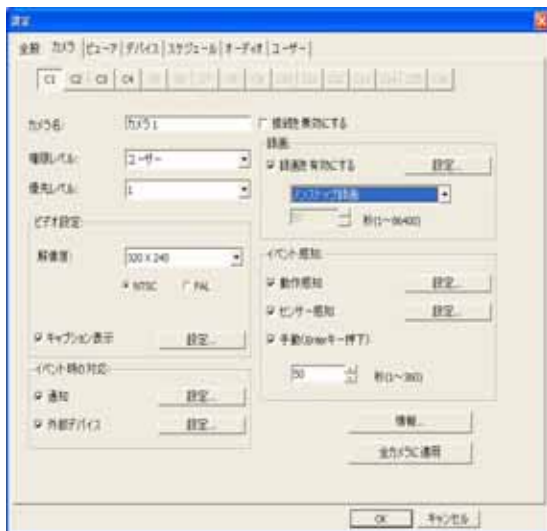
*SMTPサーバーが分からない場合は、メールソフト(画面はMicrosoft Outlook)で[ツール]→[アカウント]から「プロパティ」をクリックして下さい。「サーバー」タブをクリックし、送信メール(SMTP(U)):に記述されているアドレスを入力して下さい。

「日付と時刻」ボタン

日付、時刻の設定画面が表示されます。

設定 >> カメラ

設定画面の「カメラ」タブをクリックすると、各カメラについての設定を行うことができます。



C1～C16(カメラボタン)

各ボタンは設定している各カメラに相当します。各カメラに対応するボタンをクリックして、カメラごとに設定を行うことができます。

カメラ名

カメラ名を入力することができます。

接続を無効にする

カメラの接続を無効にします。

権限レベル

ユーザーの権限によってモニタリングを許可／不許可にするために、カメラごとに権限レベルを割り当てることができます。▼をクリックすると4つの権限レベルが表示されますので、選択して下さい。例えば、管理者を選択した場合、ログオン時の権限が管理者以外であるとカメラを見ることができなくなります。ユーザー権限については39ページを御覧下さい。

優先レベル

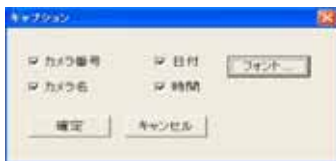
各カメラに優先レベルを設定しておく、複数のイベントを同時に各カメラが検出した時、表示している画面数より検出したイベント数の方が多い場合等に、どのカメラからの画像を優先して表示するかを、設定した優先レベル順に表示します。

解像度

ビデオの解像度(320×240、640×240、640×480)、規格(NTSC,PAL)を選択できます。規格はNTSCを選択して下さい。(日本でのビデオ再生には、NTSC規格を採用しています。)

キャプション表示

クリックしてチェックを入れると、各カメラが表示する画面ごとに、カメラ番号、カメラ名、日付、時間の何れか、もしくは全てをキャプションとして表示することができます。「設定」ボタンをクリックすると表示内容の設定を行う設定画面が表示されます。「フォント」ボタンをクリックすると、フォントの設定を行うこともできます。但し、色、取り消し線、下線の文字飾り関連の変更はできません。また、キャプション表示を有効にしている場合のみ、録画時には画面右下に「REC」インジケータが表示されます。



ビデオサイズが640×480に設定されている時だけ、選択したフォントは、実際のフォントサイズで表示されます。例えば、ビデオサイズが320×240で設定されている時に、フォントサイズを16ポイントと設定した場合、フォントは8ポイントで表示されます。

イベント時の対応

イベント検出時に自動的に通知を行うようにするには、「通知」にチェックを入れ、「設定」ボタンをクリックして表示された通知画面上で、各種設定を行う必要があります。「外部デバイス」をクリックしてチェックを入れた場合は、イベント検出時に自動的に外部デバイスに信号を送ります。



通知

「通知」にチェックを入れ、「設定」ボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。



Eメール

Eメールの右の「オプション」ボタンをクリックすると、以下の設定画面が表示されます。必要な情

報を設定し、Eメールの左のチェックボックスにチェックを入れると、イベント感知時に以下のようなメッセージと動作感知時の静止画像を添付してメール送信します。また、画像を添付しないで送信するように設定を変更することも可能です。(詳細は付録「LiveTag.iniの設定」を御覧ください。)

huperDVR が異常を感知しました！

発生場所： ローカルサイト 発生時刻： 2003/05/28 23:26:39.
イベントタイプ： 動作イベント
差出人： ノートカムプロ

以上

※NTTドコモの添付ファイルについて

iモードメールではiモードセンターで添付ファイルを削除して受信しているため、添付ファイルを受信することができません。但し、「写メ蔵」等の一般サイトのサービスを利用することで、添付メールを受け取ることが出来ます。

「写メ蔵」(無料) <http://shamezo.com/>

*「写メ蔵」の使用方法等は上記サイトをご参照下さい。



送信先のメールアドレスを入力後、クリックします。

一覧の中から削除するアドレスをクリックし指定してから、ボタンをクリックします。

* SMTPサーバー名が分からない場合は、22ページに記述してある方法でお調べ下さい。

FAX

FAXの右の「オプション」ボタンをクリックすると、次ページの画面が表示されます。必要な情報を設定し、FAXの左のチェックボックスにチェックを入れると、指定したFAX番号への通知が有効になります。通知メッセージは英文のみとなります。



モデムと接続している利用可能なCOMポートを1つ選択します。

追加した送信先のFAX番号の一覧を表示します。最大5件まで設定可能です。

送信先のFAX番号を入力します。

一覧の中からFAX番号をクリックしてから、ボタンをクリックすると指定したFAX番号を修正することができます。

送信先のFAX番号を入力後、クリックします。

一覧の中からFAX番号をクリックしてから、ボタンをクリックすると、指定したFAX番号を削除します。

電話

電話の右の「オプション」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。必要な情報を設定し、電話の左のチェックボックスにチェックを入れると、指定した電話番号への通知が有効になります。電話での通知を行う場合、モデムに音声機能が付いている必要があります。



接続しているモデムを選択します。

追加した電話番号の一覧を表示します。最大5件まで設定可能です。

通知する電話番号を入力します。

追加: 通知先の電話番号を入力後、クリックします。

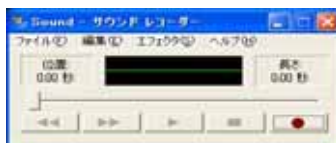
削除: 一覧の中から電話番号を選択してから、ボタンをクリックすると、指定した電話番号を削除します。

修正: 一覧の中から電話番号を選択してから、ボタンをクリックすると、指定した電話番号を修正することができます。

参照ボタンをクリックし、呼び出し及び警告メッセージとして使用するWAVファイルを選択して読み込みます。録音ボタンをクリックして、オリジナルのメッセージを吹き込むこともできます。

■オリジナルメッセージの録音方法■

- ①「録音」ボタンをクリックします。
- ②サウンドレコーダーが起動します。
- ③右下の「●」ボタンをクリックしてメッセージを録音して下さい。
- ④「■」ボタンをクリックして録音を停止します。
- ⑤「ファイル(F)」をクリックし「名前を付けて保存(A)」をクリックして下さい。



⑥「呼び出しメッセージ」は「prefix」、「警告メッセージ」は「mainbody」ファイルを上書きして保存して下さい。



FAX、電話に通知を行う場合は、ダイヤルアップ接続する必要があります。ADSLや光ファイバーでは使用できません。またFAXか電話はどちらか一つだけ選択でき、両方選択することはできません。

アラーム

チェックを入れると、イベント発生時にDVRサーバーをインストールしているパソコンでアラームを鳴らすことができます。アラームの種類は、▼をクリックして一覧の中から、犬の鳴き声、ベルアラーム、ホイッスル、レーザー、カスタムの中から選択するか、「録音」ボタンをクリックしオリジナルのアラーム音を作成し、設定することもできます。カスタムは、「録音」ボタンをクリックしオリジナルのアラーム音として作り直すことができます。アラーム音の確認は、「再生」ボタンをクリックし、終了する場合は「停止」ボタンをクリックして下さい。また、「ループ」にチェックを入れるとイベントを検出している間中、アラームを鳴らし続けることができます。

■オリジナルのアラーム音作成方法■

- ①20ページの通知画面の「アラーム」の▼をクリックして、一覧の中から「カスタム」を選択して下さい。
- ②「録音」ボタンをクリックします。
- ③サウンドレコーダーが起動します。
- ④右下の「●」ボタンをクリックして、アラーム音を録音して下さい。
- ⑤「■」ボタンをクリックして録音を停止します。
- ⑥「ファイル(E)」→「上書き保存(S)」をクリックして下さい。(「custom(.wav)」が上書きされます。)
- ⑦「再生」ボタンをクリックして、録音した内容をご確認下さい。

DVRサーバー画面でメッセージ点滅

チェックを入れると、イベント発生時にDVRサーバー画面下に「Event」インジケータが表示されます。

リモートサイトにメッセージ通報

チェックを入れると、リモートビューア(第7章を御覧下さい)の画面上で、イベント発生時に「Motion」インジケータが点灯します。

イベント発生時の保留時間

分割画面表示時にイベントを検出した場合、単独画面に表示を切り替えます。この時、表示が分割画面に戻るまでの、単独画面表示継続する時間をここで指定することができます。

外部デバイス

「外部デバイス」をクリックしてチェックを入れた場合、イベント検出時に自動的に外部デバイスに信号を送ります。「設定」ボタンをクリックすると選択画面が表示され、どの外部デバイスに信号を送るかを選択することができます。ここでは外部デバイス名の変更はできません。

録画

「録画を有効にする」をクリックしてチェックを入れると、録画を有効にします。録画方法は以下の4つの中から選択できます。

「ノンストップ録画」

24時間継続して録画を行います。

「切り替え録画」

イベント検出時、指定したフレームレートでの録画を行い、イベントを検出していない場合、5秒1フレームのフレームレートで録画を行います。

「イベント録画」

イベントを感知した時に録画を行います。また、イベント録画を選択すると、プリアラーム録画を行うこともできます。プリアラーム録画とは、イベントが発生する前から録画を開始する機能で、「プリアラーム録画」にチェックを入れ、秒数を設定することで、イベントを感知する前から録画を開始することができます。プリアラーム録画はイベント録画時のみ有効で、設定秒数は1～10秒以内です。



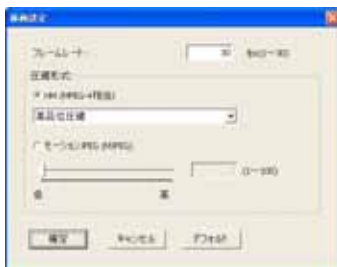
「微速度録画」

設定した秒数分の1フレームでコマ落とし録画を行います。



微速度録画を選択した場合、ここで秒数を設定します。

「設定」ボタンをクリックすると、以下の録画設定画面が表示され、フレームレート、圧縮形式の設定を行うことができます。



フレームレート

1秒間に設定した回数分、画面更新を行います。スムーズに録画データを再生するには、少なくとも15fpsは必要です。但し設定値が高くなると、より多くの録画領域が必要となります。

圧縮形式

2種類の圧縮形式を選択して、画質とファイルサイズを決定します。

HM MPEG-4に相当するHuperLab社、独自のビデオデータ圧縮フォーマットで録画を実行します。「通常圧縮」「高速圧縮」「高品位圧縮」の3種類の圧縮形式から選択することができます。

モーションJPEG モーションJPEG形式で録画を実行します。スライドをドラッグして値を調整することができ、設定値が高いほど、画質はよくなります。



音声録音の接続は、初期設定では無効になっています。録画時に音声を同時録音する場合は、設定画面を呼び出し、オーディオの「接続を無効にする」のチェックを外して下さい。

動作感知

クリックしてチェックを入れると、カメラによる動作感知を有効にします。「設定」ボタンをクリックすると、以下の動作感知の設定画面を表示し、詳細な設定を行うことができます。DVRサーバーは基本的に、フレーム間に変更があった場合、連続したフレームを比較することによって、動きを検出します。また、カメラの視界内に動作感知の必要がないエリアがある場合、このエリアをマスクして動作感知の対象外にすることも可能です。



ボタン

本ボタンをクリック後、プレビューウィンドウ上でマウスをドラッグしてマスクします。マスクした範囲内は動作感知を行いません。



ボタン

本ボタンをクリック後、プレビューウィンドウ上でマウスをドラッグして、マスクをクリアします。クリアした範囲内は動作感知を行います。



ボタン

画面全体を動作感知の範囲外としてマスクします。



ボタン

設定したマスクをクリアします。



ボタン

プレビューウィンドウ上に、1フレーム／秒のフレームレートでライブ映像を表示します。



ボタン

プレビューウィンドウ上の映像を一時停止画像で表示します。

イベント間隔

初めの動作検出と次の動作検出までの間隔を設定します。動作を検出後、次の動作まで動きがない場合でも、設定した時間内は同一の動作とみなし、イベント録画は指定した時間内継続し、通知は初めに1回のみ行います。指定できる間隔は、1～99秒です。

イベント持続時間

設定した秒数以上、継続した動きがあった場合に動作感知として認識します。動作が設定した秒数に満たない場合、その動作は検出されません。指定できる時間は0秒～99秒です。

感度

設定値を高くすることで、動作感知する感度が高くなり、微妙な動きでも感知が可能になります。但し、設定値を高くし過ぎると感知し過ぎる場合がありますので、ご注意ください。

ノイズ

夜間になると光源が弱いため、映像にノイズが発生します。そのため、映像に混じったノイズを動作と誤感知することがあります。設定値を低くしたり、上記「感度」と併せて調整を行うことで、誤感知を防ぐことができます。

移動物の検出表示

クリックしてチェックを入れると、画面上で感知した対象物の動きに沿って、白枠が表示されます。

感知範囲の表示

クリックしてチェックを入れると、設定したマスクをDVRサーバー画面上で表示します。

小さい対象を無視

指定したサイズ以下の大きさのものが動作しても感知しなくなります。クリックしてチェックを入れ「取得」ボタンをクリック後、プレビュー画面上でマウスをクリック～ドラッグ～クリックすると幅(W)と高さ(H)に値が反映され、その数値以下のサイズのものが動作しても感知対象外となります

大きい対象を無視

指定したサイズ以上の大きさのものが動作しても感知しなくなります。クリックしてチェックを入れ「取得」ボタンをクリック後、プレビュー画面上でマウスをクリック～ドラッグ～クリックすると幅(W)と高さ(H)に値が反映され、その数値以上のサイズのものが動作しても感知対象外となります

センサー感知

チェックを入れると、センサーによる動作感知を有効にし、「設定」ボタンをクリックすることで、動作感知時に使用するセンサーを選択する画面を呼び出すことができます。ここではセンサー名を変更することはできません。

手動

チェックを入れると、手動による動作感知を有効にします。手動で「Enter」キーを押下すると、設定した秒数分、動作感知を行います。

「情報」ボタン

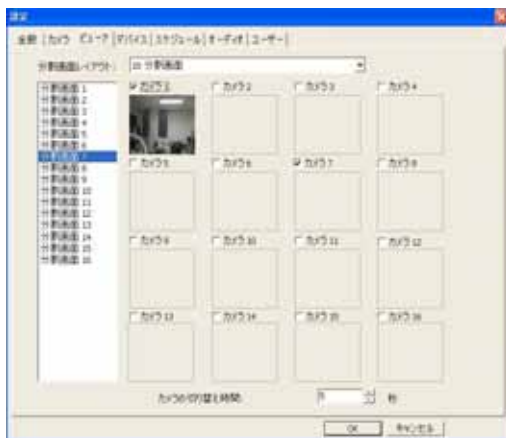
クリックすると各カメラ名、接続状況、フレームレート、録画形式の確認をすることができます。

「全カメラに適用」ボタン

クリックすると現在設定しているカメラの設定を、他の全てのカメラにも適用します。

設定 >> ビューア

設定画面の「ビューア」タブをクリックすると、各分割画面へのカメラの割り当てについて、設定を行うことができます。



分割画面レイアウト

右側の▼をクリックして、カメラの割り当てを行う分割画面を表示された一覧から選択します。

カメラの切り替え時間

1つの分割画面に、複数のカメラを割り当てている場合の表示時間を指定します。指定した時間ごとに、画面が切り替わります。

画面左に表示されている分割画面番号をクリックすると、画面右側では、クリックした番号に割り当てられている「カメラ1」～「カメラ16」の何れかのチェックボックスにチェックが入った状態で、カメラからの画像を表示します。初期設定では、「分割画面1」には「カメラ1」、「分割画面2」には「カメラ2」... というように、分割画面の番号とカメラ番号が対応しています。「カメラ1」～「カメラ16」の左のチェックボックスにチェックを入れた場合、表示が有効になり、チェックを外すと無効になります。また、分割画面1つに複数のカメラを設定することもできます。



(例)前ページの図のように設定したとすると、16分割画面表示時には画面7にカメラを表示します。設定カメラ数が8台で、他の画面にはカメラを割り当ててない場合、表示画面は左のようになります。

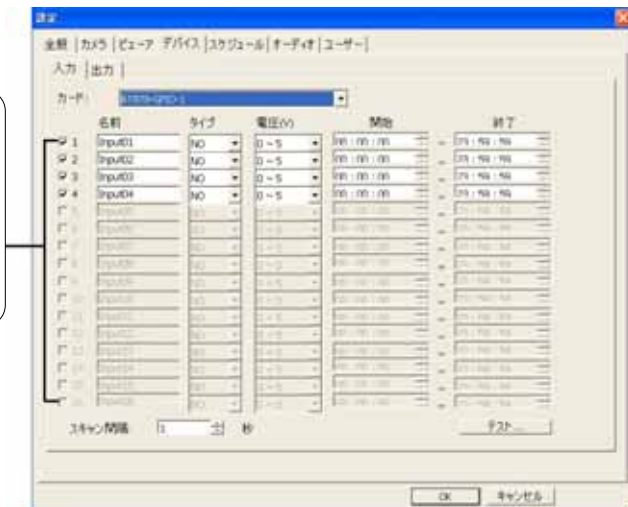
設定 >> デバイス

オプションのIOカード「IOC-0404P」を設置した場合のみ、センサーやアラーム等の外部デバイスを使用することができます。設定画面の「デバイス」タブをクリックすると、I/Oカードの選択や、センサーやアラーム等のセキュリティデバイスの接続設定を行うことができます。

「入力」タブをクリックすると、センサーデバイスの設定を行うことができ、「出力」タブをクリックすると、DVRサーバーからの信号を受け取るデバイスを有効にします。

「入力」タブでは、最大16のセンサーデバイスを有効にしカスタマイズすることができます。

チェックを入れると、センサーの接続を有効にし、チェックを外すと、接続を無効にします。



カード

▼をクリックして、表示されたドロップダウンリストの中からI/Oカードを選択します。アナログ入力ポート数は各I/Oカードによって異なります。

スキャン間隔

定期的に入力ポートにスキャンを行う間隔(秒)を設定することができます。

名前

センサー名を指定することができます。

タイプ

▼をクリックして、入力タイプ[NC(常時閉)/NO(常時開)]の何れかを選択します。

電圧

▼をクリックして、センサーの入力電圧の範囲を選択します。

開始～終了

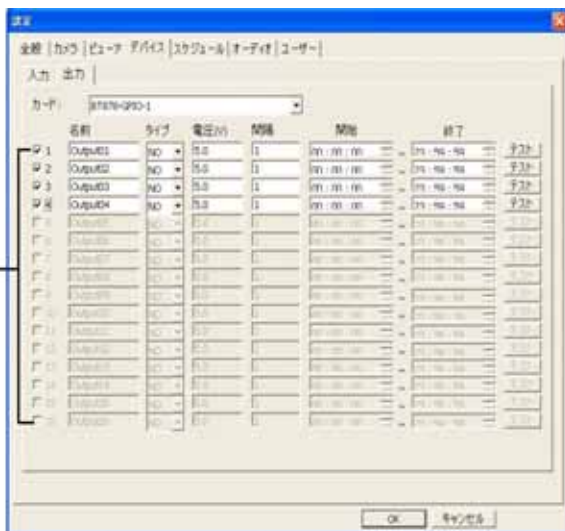
アナログ入力センサーをモニタリングする開始/終了時間を設定します。

テスト

クリックすると「センサーテスト」ダイアログボックスが表示され、入力タイプと現在の電圧値をチェックすることができます。

出力デバイスとDVRサーバー間の接続をチェックするために、各出力デバイスと電圧の検査をすることができます。

チェックを入れると、デバイスの接続を有効にし、チェックを外すと、接続を無効にします。



カード

ドロップダウンリストからI/Oカードを選択します。アナログ出力ポート数は各I/Oカードによって異なります。

名前

センサー名を指定することができます。

タイプ

出力タイプ[NC(常時閉)/NO(常時開)]を選択できます。

電圧

出力電圧を指定することができます。

間隔

デバイスに指定した出力電圧を送る間隔を指定できます。

開始～終了

出力デバイスを作動させる時間を設定します。

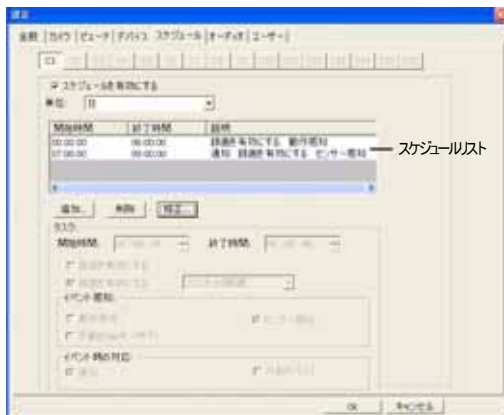
テスト

クリックすると、指定した電圧を常時開のデバイスに出力し、指定した間隔で常時閉のデバイスに電圧0を出力します。

設定 >> スケジュール

設定画面の「スケジュール」タブをクリックすると、カメラごとにスケジュール管理の設定を行うことができます。

日間スケジュールの設定

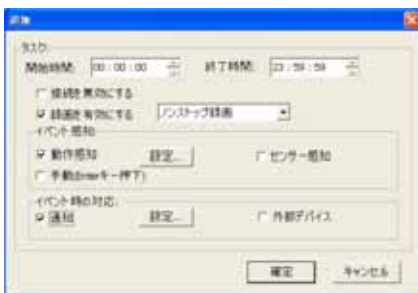


〔設定手順〕

1. 「カメラボタン(C1～C16)」をクリックして、スケジュール設定を行うカメラを選択して下さい。
2. 「スケジュールを有効にする」をクリックしてチェックを入れて下さい。
3. 「単位」の右の▼をクリックするとリストが表示されます。リストの中から「日」を選択して下さい。
4. スケジュールを追加する場合は「追加」ボタンをクリックして下さい。
5. 詳細設定画面が表示され、1日単位でのスケジュール設定を行うことができます。(詳しくは、以下の「1日単位のスケジュール設定」を御覧下さい。)
6. 他のカメラについても設定を行う場合は、上記1～5の手順を繰り返して下さい。
7. 追加した全てのスケジュールがスケジュールリストに表示されます。スケジュールリスト内に表示されているスケジュールをクリックすると、「タスク:」の枠内に設定した内容が表示されます。リスト内からスケジュールを選択して「削除」ボタンをクリックすると、指定したスケジュールを削除し、同様に「修正」ボタンをクリックすると、指定したスケジュールの修正を行うことができます。

1日単位のスケジュール設定

「追加」ボタンをクリックすると、次ページの1日単位のスケジュール設定画面が表示されます。



開始／終了時間

モニター及びイベントの検出を行う時間を指定します。

接続を無効にする

指定した開始／終了時間内、選択したカメラの接続を無効にします。

録画を有効にする

▼をクリックして表示されたドロップダウンリストから録画方法を選択し、指定した開始／終了時間内、録画を有効にします。(録画方法については27～28ページを御覧ください。)

イベント感知

イベント感知方法を選択します。(詳細については29～30ページを御覧ください。)

イベント時の対応

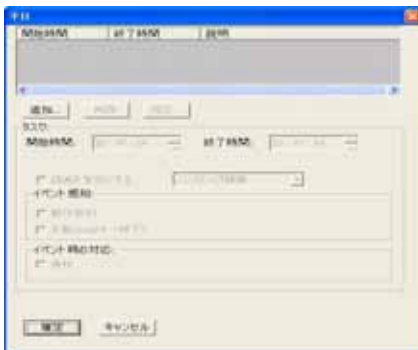
イベント感知時の対応方法を選択します。(詳細については24～27ページを御覧ください。)

週間スケジュールの設定

週間スケジュールでは、1週間を平日、休日、祝日に分けて、それぞれ異なるスケジュール設定を行うことができます。

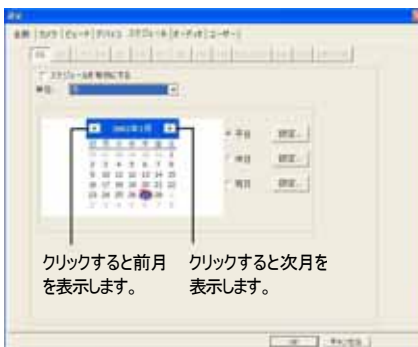


1. 「カメラボタン(C1～C16)」をクリックして、スケジュール設定を行うカメラを指定して下さい。
2. 「スケジュールを有効にする」をクリックしてチェックを入れて下さい。
3. 「単位」の右の▼をクリックするとリストが表示されます。リストの中から「週」を選択して下さい。
4. リストに設定されている曜日は、土曜、日曜を休日、その他の曜日を平日と初期設定されています。指定した曜日を「祝日」等に変更することもできます。
5. 「平日」「休日」「祝日」をそれぞれクリックしてチェックを入れてから、「設定」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。(以下は「平日」の「設定」ボタンをクリックした場合は、「休日」「祝日」の場合も、左上のキャプションが違う以外は画面の内容は同じです。)



6. 1日単位のスケジュール設定画面が表示され、設定を行うことができます。(設定方法については、35ページの「1日単位のスケジュール設定」を御覧下さい。)
7. 他のカメラについても設定を行う場合は、上記1～6の手順を繰り返して下さい。

月間スケジュールの設定

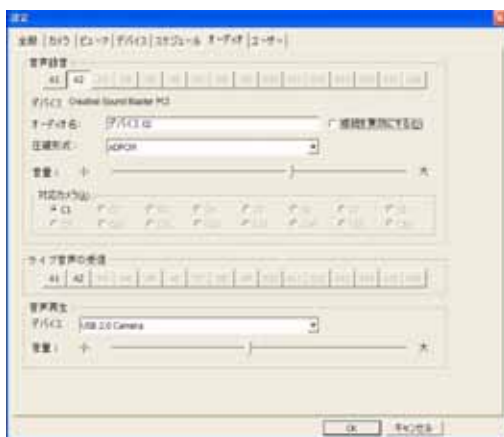


[設定手順]

1. 「カメラボタン(C1～C16)」をクリックして、スケジュール設定を行うカメラを選択して下さい。
2. 「スケジュールを有効にする」をクリックしてチェックを入れて下さい。
3. 「単位」の右の▼をクリックするとリストを表示します。リストの中から「月」を選択して下さい。
4. カレンダーが表示され、現在の月を表示します。リストに設定されている曜日は、土曜、日曜を休日、その他の曜日を平日と初期設定されています。指定した曜日を「祝日」等に変更することもできます。
5. 「設定」ボタンをクリックすると、1日単位でのスケジュール設定画面が表示され、設定を行うことができます。(設定内容については35ページの「1日単位のスケジュール設定」を御覧下さい。)
6. 他のカメラについても設定を行う場合は、上記1～5の手順を繰り返して下さい。

設定 >> オーディオ

設定画面の「オーディオ」タブをクリックすると、DVRサーバーの音声録音、再生等の詳細設定を行うことができます。



音声録音

オーディオボタン(A1～A16)

ボタンをクリックして録音時に使用するオーディオデバイスを選択します。

デバイス

オーディオボタンで選択したデバイス名が表示されます。

オーディオ名

オーディオ名を入力することができます。

接続を無効にする

チェックを入れると音声録音に使用するために指定したオーディオデバイスの接続を、無効にします。

圧縮形式

使用する圧縮計式を選択します。現在はMicrosoft ADPCM圧縮だけを選択できます。

音量

スライドタブをドラッグして音量の調整を行うことができます。

対応カメラ

上記オーディオボタンで選択したデバイスに対応するカメラを、1つ選択します。

ライブ音声の受信

DVRサーバーでリアルタイムに受信するオーディオを選択します。

音声再生

デバイス

複数のオーディオデバイスをインストールしている場合、右端の▼をクリックすると、一覧が表示され、デバイスをリストから選択できます。

音量

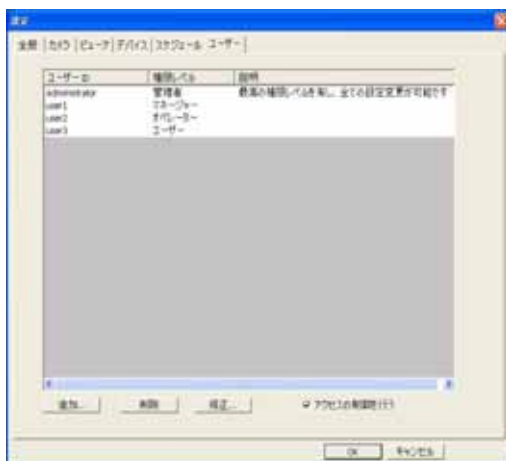
スライドタブをドラッグして音量の調整を行うことができます。



- ・オーディオボタンA1はパソコンのオーディオデバイスが割り当てられます。A2からhyperDVRのキャプチャカードのオーディオ入力に割り当てられます。
- ・音声と録画映像に若干ズレが生じる場合があります。
- ・同じオーディオデバイスを使用する場合、通話の実行と音声録音は同時に行うことはできません。音声録音を行う場合、通話設定(15ページを御覧下さい。)の「通話を行う」のチェックを外して下さい。

設定 >> ユーザー

DVRサーバーではユーザーIDを設定して、それぞれ権限レベルを割り当てることができます。権限レベルは管理者、マネージャー、オペレーター、ユーザーの4つからなります。「アクセスの制御を行う」にチェックを入れている場合に、設定した権限レベルが有効になり、ログオン時にユーザーID、パスワードの入力が必要になります。パスワードは英数字の最大8文字で大文字/小文字の違いを認識します。



管理者

- ・ DVRサーバーに関する全ての設定変更が可能です。
- ・ バックアップスケジュールへのログオンが可能です。
- ・ 初期設定では Administrator というユーザーIDの管理者が設定されています。Administrator でログオンする場合は、パスワードは必要ありません。

マネージャー

- ・ 管理者に次ぐ権限レベルです。カメラに割り当てられた権限が管理者の場合は、マネージャーでログオンしてもモニタリングできませんが、それ以外の権限レベルが設定されている場合は、モニタリングできます。
- ・ 設定の変更はできません。
- ・ バックアップスケジュールへのログオンはできません。

オペレーター

- ・ マネージャーの次の権限レベルです。オペレーターでログオンした場合、カメラに管理者もしくはマネージャーの権限が割り当てられていると、モニタリングできません。
- ・ DVRサーバーに関する設定の一部(ユーザーに関する設定以外)を変更できます。
- ・ バックアップスケジュールへのログオンが可能です。

ユーザー

- ・ 一番低い権限です。ユーザーでログオンした場合、カメラに割り当てられた権限がユーザーの場合のみ、モニタリングできます。
- ・ 設定の変更はできません。
- ・ バックアップスケジュールへのログオンはできません。

「アクセスの制御を行う」

チェックを入れると、設定した権限レベルが有効になります。DVRサーバーのログオン時にはユーザーIDとパスワードの入力が必要になり、リモートビューア(第7章を御覧下さい。)へゲストログオンはできなくなります。



- ・ 管理者のみ、DVRサーバーの電源オフを行うことができます。
- ・ バックアップスケジュール(第6章を御覧下さい)へのログオンは、管理者およびオペレーターのみ可能です。他の権限ではログオンできません。

※カメラへの権限の割り当ては「設定 > >カメラ」の権限レベルで設定します。23ページを御覧下さい。

アクセスの制御を行う場合、ログオンユーザーの権限とカメラに割り当てられた権限の関係、設定変更について、前述の説明を簡単に表にすると以下のようになります。

○・・・モニタリング可 ×・・・モニタリング不可

カメラに割り当てた権限	管理者	マネージャー	オペレーター	ユーザー
ログオンユーザー				
管理者	○	○	○	○
マネージャー	×	○	○	○
オペレーター	×	×	○	○
ユーザー	×	×	×	○

「追加」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示され、新規ユーザーを追加することができます。リスト上のユーザーをクリックし選択してから「削除」ボタンをクリックすると、指定したユーザーを削除することができます。リスト上のユーザーをクリックし選択してから「修正」ボタンをクリックすると、設定変更（以下の「追加」時の画面と左上のキャプション以外は同じ）画面が表示され、設定を変更することができます。

ユーザーIDを入力して下さい。

パスワードを入力して下さい。

確認のため、もう一度パスワードを入力して下さい。

▼をクリックすると、前述の4つの権限レベルが表示されますので、どれか1つ権限を選択して下さい。


必要な場合は入力して下さい。

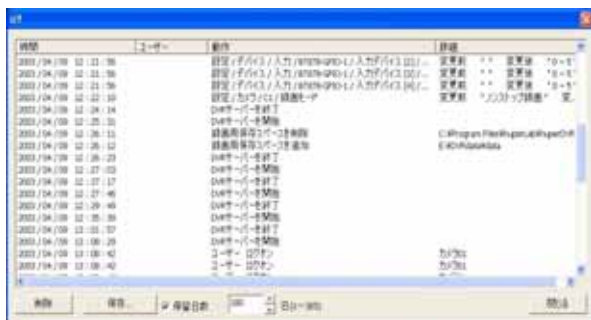


- ・「アクセスの制御を行う」にチェックを入れなかったり、ユーザーIDやパスワードの設定を行わなかった場合、第三者によってリモートからDVRサーバーの内容を閲覧されることや、同サーバーをインストールしているパソコンをリモートコントロールされ、システムを改悪される怖れがあります。十分にご注意下さい。
- ・ 設定したユーザーID、パスワードをお忘れにならない様、ご注意ください。

ログの閲覧と保存メディア情報

ログの表示

情報ボタンをクリックすると、バージョン情報および著作権情報が表示されます。表示画面の下の「ログ」ボタンをクリックすると、以下のログ画面が表示されます。



削除

リスト上のログをクリックして選択してからボタンをクリックすると、指定したログを1件ずつ削除することができます。（複数のログを同時に削除はできません。）

保存

クリックすると現在リストに表示されているログを、テキストファイルに保存します。

保留日数

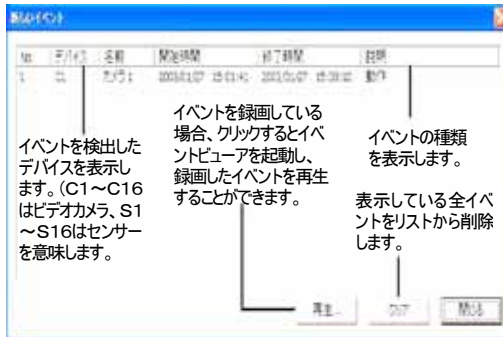
ログを保留する日数を設定できます。設定できる範囲は1日～365日までです。

DVRサーバーのメイン画面右下に表示されている、以下のボタンをクリックすると、新しいイベント情報と保存メディア情報をそれぞれ表示します。



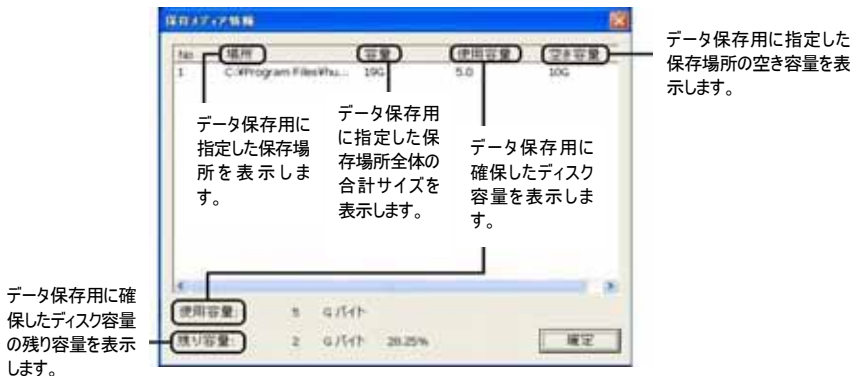
新しいイベント情報

上記ボタンで表示されている数字は、新しく検出したイベント数です。クリックすると、検出した新しいイベントの詳細情報が表示されます。



保存メディア情報


上記ボタンで表示されている数字は、指定した録画用の保存メディアの残り容量のパーセンテージです。クリックすると、以下のように詳細情報を表示します。



第5章 レコードプレイヤー

レコードプレイヤーでは、DVRサーバーによってデジタル録画を行ったデータを検索、再生することができます。指定した間隔で全ての録画データを一覧表示、もしくはイベント録画のタイプごとに一覧表示し、異なるカメラからの録画データを最大16個まで、同時に再生することができます。

起動方法

レコードプレイヤーを起動するには、DVRサーバー画面右下の  ボタンをクリックする方法と、「スタート」→「プログラム(すべてのプログラム)」→「huperDVR 2400 Vxxx」→「レコードプレイヤー」から起動する方法があります。(xxxにはバージョン番号が入ります。)

全ての録画データを検索

検索タイプを「全ての録画」として録画データを検索した場合、以下のような画面表示になります。



検索タイプとカメラを選択します。

検索タイプを「全ての録画」を選択した場合、設定した時間間隔ごとに区切った形で録画データの一覧を表示します。

次ページを参照して下さい。

クリックするとレコードプレイヤーを終了します。

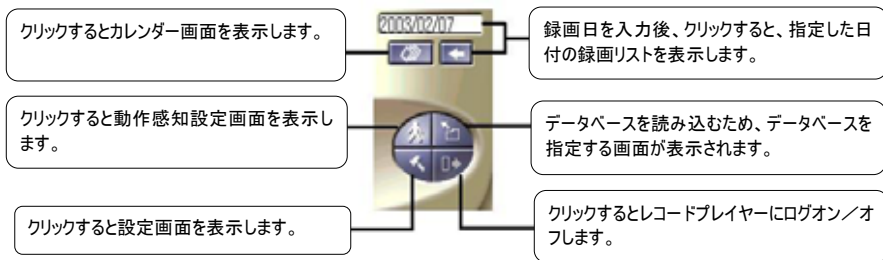
47ページを参照して下さい。

カメラ選択パネル:
録画を再生するカメラ番号をクリックして選択します。複数同時に選択することもでき、カメラを1つだけ選択することを、シングルカメラモードと呼びます。

アクセスしている録画データベース名を表示します。

メモリーボタン:
46ページを参照して下さい。

スナップショット:
50ページを参照して下さい。
AVI形式で保存:
49ページを参照して下さい。
画像圧縮:
48ページを参照して下さい。



イベントタイプによる検索

イベントタイプによる録画データの検索をした場合、以下のような画面表示になります。



※説明が入っていない箇所は、前ページの「全ての録画データを検索」と共通です。

データベースの選択

レコードプレイヤーが読み込むデータベースは2種類あり、読み込んだデータベースから記録したデータを検索することができます。


メインデータベース

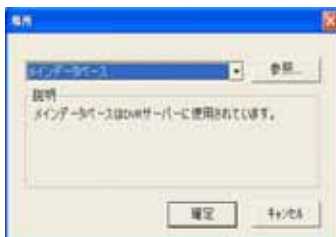
DVRサーバーが録画する際の保存用ビデオデータベースです。レコードプレイヤーの初期設定では、このデータベースをオープンします。

バックアップデータベース

バックアップスケジュールを使用して、メインデータベースの録画データを個別のデータベースとしてバックアップしたデータベースです。(バックアップスケジュールについては、第6章を御覧ください。)

バックアップデータベースの読み込み

1.  ボタンをクリックして下さい。
2. 以下の画面が表示され、以前にバックアップしたデータベースのパスが、▼をクリックするとドロップダウンリストに表示されます。リスト上からデータベースを1つ選択するか、リスト外のデータベースを「参照」ボタンをクリックしてから、選択して下さい。



バックアップデータベースを読み込んだ後、再度「メインデータベース」を読み込む場合は、レコードプレイヤーを再起動して下さい。

録画データの再生

録画したビデオデータを再生するには、録画日を選択して、表示された録画データの一覧の中から、再生する録画データを選択します。

録画日の選択

録画日の選択には、以下の2つの方法があります。

- ・ 録画日を入力する方法
- ・ カレンダーボタンをクリックする方法

クリックすると以下のカレンダー画面を表示します。



録画日を入力後クリックすると、指定した日付の録画リストを表示します。

クリックすると前月を表示します。



クリックすると次月を表示します。

録画データがある日は青枠で表示します


クリックして日付を指定してから「確定」をクリックすると、録画リストを表示します。

録画データの検索・再生

録画方式の選択画面で、検索タイプを選択後、選択した録画データを再生することができます。検索・再生方法は以下の通りです。

1. 右の録画方式の選択画面で、まず再生するカメラを選択して下さい。
2. 次に「全ての録画」の横の▼をクリックし、検索タイプを選択します。検索タイプは以下の通りです。

全ての録画

指定した間隔に区切って録画データをリストに表示します。初期設定は、1時間間隔で録画リストを表示します。(録画間隔の設定変更を行う場合は  ボタンをクリックして、設定変更画面を呼び出して下さい。詳細は47ページを御覧下さい。)

全てのイベント

指定した日付の全てのイベント録画をリストに表示します。リストに表示される()内の文字は以下の内容を意味します。

(Mo) 動作感知録画

(S「n」) センサー感知録画。「n」にはセンサー番号が入ります。

(Ma) 手動録画

動作

指定した日付の動作感知によるイベント録画全てを、リスト上に表示します。リスト上には録画開始時間とイベントを録画したカメラ番号を表示します。

センサー

指定した日付のセンサー感知によるイベント録画全てを、リスト上に表示します。リスト上には録画開始時間とイベントを録画したセンサー番号を表示します。



手動


指定した日付の手動感知によるイベント録画全てを、リスト上に表示します。リスト上には録画開始時間とイベントを録画したカメラ番号を表示します。

3. リスト内から再生する録画の時間を指定して下さい。
4. カメラ選択パネルで、再生するカメラの番号ボタンをクリックして選択します。
5. 「再生」ボタンをクリックして、選択した録画時間の再生を行います。

■全てのカメラと全ての録画データを選択した場合■

全てのカメラと全ての録画データを選択した場合、カメラ選択パネル上の再生するカメラの番号ボタンをクリックして選択して下さい。解除する場合は再度、ボタンをクリックして下さい。番号ボタンは、複数同時に選択することができます。選択したカメラの数によって、以下のように分割画面表示します。

1台のカメラを選択	単独画面表示
2～4台のカメラを選択	4分割画面表示
5～9台のカメラを選択	9分割画面表示
10～16台のカメラを選択	16分割画面表示

選択した複数のカメラをすべて解除し、カメラ1台のみを選択するには、 ボタンをクリックして下さい。

メモリーボタン

全てのカメラと全ての録画データを選択して検索／再生する場合、メモリーボタンを使用することができます。指定時間ごとに異なるカメラを表示する必要がある場合、3つのメモリーボタンにそれぞれ異なるカメラを表示するように選択して、記憶することができます。

設定方法

1. カメラ選択パネルの番号ボタンをクリックして、表示するカメラを指定して下さい。
2. メモリーボタンを1つ選んで、2秒間マウスをクリック&ホールドして下さい。メモリーボタンがゆっくりフラッシュし始め、より早くフラッシュを開始し始めたら、マウスボタンを放して下さい。指定したカメラを記憶します。

レコードプレイヤーの設定

 ボタンをクリックすると、レコードプレイヤーの各種設定を行う次ページの画面が表示されます。

チェックを入れると、ビデオオーバーレイ機能を搭載したVGAカードを有効にします。チェックを外すと、YUV→RGB色空間変換を行います。

設定した間隔で、録画リストを表示します。



クリックすると以下の画面が表示されます。

録画データを繰り返し再生します。

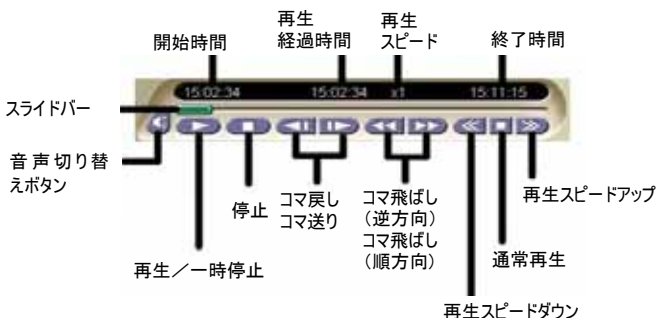
録画データの音声再生時に使用する音声デバイスを選択します。

スライドを動かして音量の調整を行います。



各分割画面にキャプションを表示するように設定できます。設定時間間隔での録画時は上で、イベント録画時は下で、設定します。

ナビゲーションパネル



開始時間

全ての録画データの一覧から再生する場合は、選択した録画データの開始時間を表示します。
イベント録画を再生する場合は、00:00:00と表示します。

再生経過時間

再生開始からの経過時間を表示します。

再生スピード

現在、再生中のスピードを表示します。

終了時間

全ての録画データの一覧から再生する場合は、選択した録画データの終了時間を表示します。
イベント録画を再生する場合は、再生しているイベント録画の長さを表示します。

スライドバー

バーをスライドして録画ビデオの任意の部分に、ジャンプすることが可能です。

音声切り替えボタン

クリックすると録画データ再生時の音声出力をオン／オフに切り替えます。(切り替えボタンをクリックする前の初期設定は、音声出力がオンになっています。)

再生／一時停止

録画データの再生を開始します。再生中は一時停止ボタンとなります。

停止

録画データの再生を停止します。停止すると、指定した録画データは最初の画面に自動的に戻るため、テープのように巻き戻す必要はありません。

コマ戻し／コマ送り

前／次のコマを表示します。(シングルカメラモード時のみ有効)

コマ飛ばし(逆方向／順方向)

逆／順方向にコマを飛ばします。

再生スピードダウン

1回クリックすると、通常再生の半分(1/2x)のスピードで再生します。再度クリックすると、1/4xのスピード、最大で1/8xのスピードまで落とすことができます。

通常再生

再生スピードを通常のスピードに戻します。

再生スピードアップ

1回クリックすると、通常再生の倍(2x)のスピードで再生します。再度クリックすると、4倍(4x)のスピード、最大で16倍(16x)までスピードを上げることができます。


再生画面の画像拡縮



ボタンをクリックすると、シングルカメラモードで再生中の画面をズームイン／アウトすることができます。


再生画面の動作感知

ビデオ再生時、動作感知をビデオに適用することができます。これにより、再生中のビデオ画面上で移動物の検出表示、感知範囲の表示を行うことができます。

設定の調整は、 ボタンをクリックして動作感知のプロパティ画面を呼び出して行います。(設定の調整の詳細は29～30ページを御覧下さい。)

NOTE 再生中のビデオ上での移動物の検出表示、感知範囲の表示は、「全ての録画」を選択した場合に限り表示されます。「全てのイベント」「動作」「手動」を選択した場合は表示されません。

ファイル形式での保存

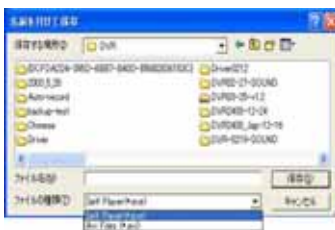
 ボタンをクリックすると、録画データの一部を指定して、実行形式やAVI形式のビデオファイルとして保存することができます。但し、録画データをシングルカメラモードで再生している場合に限りです。

■保存手順■

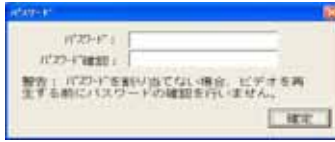
- ① 初期設定では、ビデオの開始時間と終了時間がそのまま表示されています。録画時間を指定して、内容を確認する場合は「プレビュー」ボタンをクリックします。
- ② 保存する場合は、「参照...」ボタンをクリックして下さい。



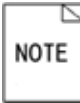
- ③ 保存する場所の指定、ファイル名の入力、ファイルの種類を実行形式(拡張子.exe)、もしくはAVI形式(拡張子.avi)のどちらか選択してから「保存」ボタンをクリックして下さい。



- ④ ②の画面に戻ったら、「確定」ボタンをクリックして下さい。
- ⑤ 実行形式として保存する場合は、パスワード入力画面が表示されます。画面が表示されたら、パスワードを2回入力して「確定」ボタンをクリックして下さい。(パスワードを入力しないと、第三者に保存した実行形式を再生・閲覧される可能性があります。)




- ⑥ 指定したフォルダに保存されたファイルをダブルクリックすると、録画データの再生を行うことができます。



- レコードプレイヤーでは、ビデオデータをAVIファイルに再保存する際に、Indeo Videoというコーデック* (CODEC)を使用しています。このコーデックは、従来のWindowsOSには標準付属されていましたが、WindowsXP SP1 より付属されなくなりました。(現在はLigos社が有料で販売しています。)ご使用の環境にこのコーデックが入っていない場合、AVIファイルに再保存しようとすると、「必要なCODECが入っていません。圧縮しないでデータを保存しますか？ビデオデータを圧縮しないで保存すると、多くの領域が必要になります！」というメッセージが表示されます。
*デジタルビデオやデジタルオーディオのデータを圧縮したり、元に戻したりする時に使用されるプログラムの集まり。パソコン上でビデオやオーディオの再生をする場合、それに対応したコーデックがないと再生できません。
- 解像度や圧縮形式を変更した録画データを、レコードプレイヤーで AVI 形式のファイルに再保存すると、「指定した録画時間内に異なる形式を含んでいるため保存できません。実行形式として分割して再保存することは可能です。もしくは指定時間を変更して下さい」というメッセージが表示されます。再保存するファイルの形式を実行形式に変更すると、解像度や圧縮形式ごとに分割してファイルを再保存します。AVI 形式で保存する場合は、異なる形式を含まない範囲に録画時間を指定し直して下さい。
- 実行形式ファイルへの再保存がうまくいかなかった場合、DVRサーバーを終了してから、もう一度再保存を実行して下さい。
- 録画データベースのデザイン上、MotionJPEG で録画したデータを再保存すると、2つのファイルに分割される場合があります。

スナップショットで画像をキャプチャ

再生中の録画データから、 ボタンをクリックして画像をキャプチャすることができます。



第6章 バックアップスケジュール

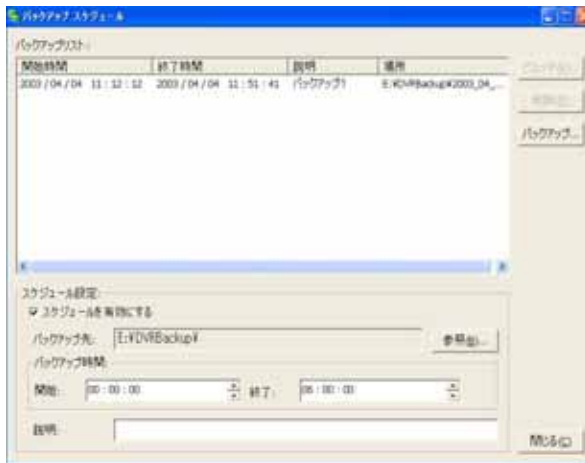
バックアップスケジュールを使用することで、手動、もしくはスケジュール設定で定期的に、録画データのバックアップを取ることができます。手動でバックアップを取る場合は、バックアップする録画データの日時、範囲を指定します。「スケジュールを有効にする。」にチェックを入れ有効にすると、指定した日付の録画を自動的にバックアップすることができます。

起動方法

「スタート」→「プログラム(すべてのプログラム)」→「huperDVR 2400 Vxxx」→「バックアップスケジュール」から起動します。(xxxにはバージョン番号が入ります。)

DVRサーバーの設定画面(ユーザータブ)で「アクセスの制御を行う」にチェックを入れ有効にしている場合は、バックアップスケジュール起動時にログオン画面が表示され、ユーザー名、パスワードの入力が必要となります。この際、バックアップスケジュールにログオンできる権限は、「管理者」と「オペレーター」だけで、他の権限ではバックアップスケジュールへのアクセス権がありません。

バックアップスケジュールメイン画面



バックアップリスト

バックアップしたデータの一覧を表示します。各バックアップデータについて、開始時間、終了時間、保存場所とバックアップ時入力した場合は説明を表示します。

ビューア

リストの中からバックアップデータを選択してからボタンをクリックすると、レコードプレイヤーを起動してバックアップデータベースに保存されている内容を再生します。

削除

リストの中からバックアップデータを選択してからボタンをクリックすると、バックアップデータをフォルダ／ファイル共に削除します。

バックアップ

DVRサーバーのメインデータベースに保存されている録画データを、手動でバックアップします。(以下の「手動バックアップの設定」を参照下さい。)

スケジュール設定

1日単位でのバックアップを自動で行うスケジュール設定を行います。(詳細は53ページ「自動バックアップの設定」を御覧下さい。)

手動バックアップの設定

バックアップスケジュールのメイン画面で「バックアップ」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示され、手動でのバックアップの設定を行うことができます。

The screenshot shows a 'Backup' dialog box with the following fields and options:

- データベース録画情報:** 開始時間: 2003/05/20 15:01:35, 終了時間: 2003/05/20 15:29:48, データサイズ: 11,9140 M バイト
- カメラ:** Grid of checkboxes for selecting cameras.
- バックアップ範囲:** データサイズを元に終了時間を確定. 開始時間: 2003/05/20, 15:01:35. 終了時間: 2003/05/20, 15:29:48. データサイズ: 0 バイト. 算出 (Calculate) button.
- バックアップ先:** Radio buttons for バックアップのみ, バックアップと削除, 削除のみ. Text field and 参照... (Browse) button.
- 説明:** Text area for notes.
- Buttons:** 確定 (OK), キャンセル (Cancel).

データベース録画情報

DVRサーバーのメインデータベースに保存されている録画データの情報を表示します。開始時間、終了時間にはそれぞれ日付、時間が表示されます。カメラの欄の数字はカメラ番号に対応しており、表示時間内に録画をしているかどうかに関わらず、指定している全てのカメラにチェックが入っています。データサイズはメインデータベースに保存されている録画データのトータルサイズです。

バックアップ範囲

データを元を終了時間を確定

開始時間を指定しデータサイズを入力してから、クリックして有効にすると、開始時間からデータサイズ分のバックアップを行うことができます。

開始時間／終了時間

バックアップを行う開始日時と終了日時を指定します。

データサイズ

「算出」ボタンをクリックすると、指定した範囲のデータサイズを計算して表示します。

バックアップのみ

指定した範囲内にある録画データをバックアップし、バックアップ完了後も、メインデータベース内に保存し続けます。

バックアップ&削除

指定した範囲内にある録画データをバックアップし、バックアップ完了後は、メインデータベース内のこの範囲を削除します。（確保している領域、フォルダ、ファイルは削除されません。）

削除のみ

メインデータベース内にある指定した範囲の録画データを、バックアップしないで削除します。（確保している領域、フォルダ、ファイルは削除されません。）

バックアップ先

バックアップデータベースを保存するフォルダを指定します。「説明」欄には、バックアップデータベースに関する説明を文字入力することができます。



カメラを選択してバックアップを取ることはできません。選択した時間内に指定している、全てのカメラの録画データをバックアップします。

自動バックアップの設定

バックアップスケジュールのメイン画面のスケジュール設定で、DVRサーバーが録画したビデオの24時間分の中から、自動的にバックアップを行うよう設定することができます。（51ページの図を御覧下さい。）

スケジュールを有効にする

クリックしてチェックを入れて、設定したスケジュールを有効にします。

バックアップ先

バックアップ先のフォルダを指定します。バックアップは日付ごとに分けて保存します。

バックアップ時間

録画データをバックアップする期間を設定します。

説明

バックアップデータベースに関する説明を文字入力することができます。

第7章 リモートビューア

リモートビューアを起動することで、離れた場所にあるDVRサーバーをモニタリングすることや、DVRサーバーをインストールしているパソコンをリモート操作することができます。リモートビューアを起動する方法は2通りあり、Webブラウザ(IE)を起動する方法と、インストールCDからリモートビューアのプログラムをインストールする方法があります。また、携帯電話からDVRサーバーをモニタリングすることも可能です。



起動方法

リモートビューアを起動する方法は、固定IPもしくはドメイン名指定による起動と、リモートビューアプログラムをインストールして起動する2つの方法があります。



アクセスの制御を行っている時に、インターネットからリモートアクセスする場合、ユーザーの権限レベルが「管理者」である場合のみログインできます。「管理者」以外の権限レベル(マネージャー、オペレーター、ユーザー)ではアクセスできません。

固定IP／ドメイン名指定による起動

インターネットを通して外部からDVRサーバーにリモートアクセスする場合、DVRサーバーをインストールしているパソコンのグローバルIPアドレスを入力する必要があります。グローバルIPアドレスが固定の場合、固定グローバルIPアドレスを指定して、DVRサーバーにアクセスします。インターネットに接続するたびにIPアドレスが変わってしまう動的グローバルIPアドレスの場合は、ドメイン名を指定してDVRサーバーにアクセスします。この際、ドメイン名は「DNSサービス」*等を利用して、前もって取得しておく必要があります。また、DVRサーバー側で「ダイナミックIPを使用」にチェックを入れることで、huperLab社が提供しているダイナミックIPを使用することで、固定グローバルIPアドレスやドメイン名を取得していなくてもリモートアクセスすることも可能です。

*「DNSサービス」は、変動するグローバルIPアドレスを、固定したドメイン名に自動的に割り当てるサービスで、プロバイダ等によりサービスの提供が行われています。

■ 起動手順(固定グローバルIPアドレス／ドメイン名取得時) ■

- ① Webブラウザを起動します。
- ② アドレスに、DVRサーバーをインストールしているパソコンの固定グローバルIPアドレス、もしくはド

メイン名を入力して下さい。

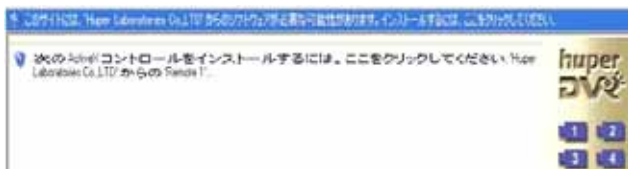
- ③ 以下の画面が表示される場合があります。表示されたら「はい」をクリックして下さい。



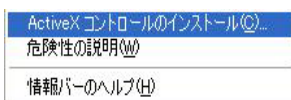
※WindowsXP ServicePack 2をインストールされている場合

WindowsXP SP 2をインストールされている場合、以下のように表示される場合がありますので、以降の手順で実行して下さい。

1. 以下のように表示されたら、「このサイトは 'Huper Laboratories Co.LTD' からのソフトウェアが必要な可能性があります。インストールするには、ここをクリックしてください。」と記述されている箇所をクリックして下さい。




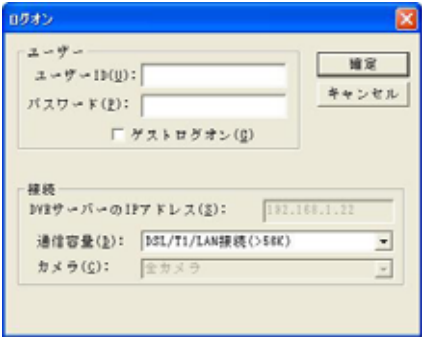
2. クリックすると、以下のメニュー画面が表示されます。「ActiveXコントロールのインストール」をクリックして下さい。



3. 以下の画面が続けて表示されます。それぞれ「インストールする」をクリックして下さい。(この前に上記のセキュリティ警告画面が表示された場合は、「はい」をクリックして下さい。)



- ④ リモートビューアが起動します。
- ⑤ 画面右下の  ボタンをクリックするとログオン画面が表示されます。ユーザーIDとパスワードを入力し、通信容量を選択してログオンすることができます。



ログイン画面のスクリーンショット。タイトルは「ログイン」。ユーザーIDとパスワードの入力欄があり、右側に「確定」と「キャンセル」ボタンがある。下部には「ゲストログオン」のチェックボックスがある。接続設定欄には「DVRサーバーのIPアドレス」(192.168.1.22)、通信容量(56K)、カメラ(空カメラ)が設定されている。

ユーザーID

パスワード

DVRサーバーの設定画面で設定したユーザーIDとパスワードを入力します。

ゲストログオン

ユーザーID、パスワードを知らない場合等にチェックを入れると、ゲストとしてログオンすることができます。DVRサーバーの設定画面で「アクセスの制御を行う」にチェックを入れ有効にしている場合は、ゲストログオンはできなくなります。

通信容量

ローカルマシンのインターネット通信容量タイプを選択します。56K以下のモデム接続か、56K以上のDSL/T1/LAN接続のどちらかを選択します。

■ 起動手順 (huperLabダイナミックIP使用時) ■

- ① DVRサーバーの設定 >> 全般画面で「ダイナミックIPを使用」にチェックを入れ、ユーザーID、パスワードを設定して下さい。(21ページを御覧下さい。)
- ② Webブラウザ (Internet Explorer) を起動して下さい。
- ③ アドレスに <http://list.huperlab.com> と入力して下さい。
- ④ ログオン画面が表示されます。①で設定したユーザーID、パスワードを入力して「送信」ボタンをクリックして下さい。



- ⑤ ようこそ画面が表示されます。「Webカメラリスト」をクリックして下さい。



- ⑥ Web Cam List画面上のSite Nameに表示されている、青いアンダーラインが入った箇所をクリックして下さい。リモートビューア画面が表示されます。



- ⑦ 以降は「起動手順(固定グローバルIPアドレス/ドメイン名取得時)」の③～⑤と同じ手順になります。

インストールCDよりプログラムをインストールして起動

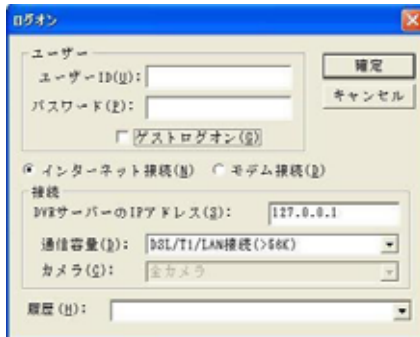
リモートビューアを起動するもう1つの方法として、DVRサーバーにアクセスするパソコンにリモートビューアプログラムをインストールして起動する方法があります。

[起動手順]

- ① インストールCDをCD-ROMドライブにセットします。
- ② 3ページの③の図が表示されます。「リモートビューアのインストール」をクリックして、表示される手順にそってインストールを行って下さい。手順は「huperDVRのインストール」と同じですので、そちらを御覧下さい。
- ③ [スタート]→[プログラム(すべてのプログラム)]→[huperDVR 2400 - リモートビューアVxxx]から [リモートビューア]をクリックして下さい。(xxxにはバージョン番号が入ります。)



- ④ リモートビューアの画面が表示されたら、 ボタンをクリックして下さい。以下のログオン画面が表示されます。



ユーザーID

パスワード

ゲストログオン

通信容量

56ページを御覧下さい。

インターネット接続

モデム接続

クリックしてチェックを入れ、接続方法を選択して下さい。

DVRサーバーのIPアドレス

DVRサーバーをインストールしているパソコンの固定グローバルIPアドレス、もしくはドメイン名を入力します。

履歴

右端の▼をクリックすると、以前に入力したDVRサーバーのIPアドレスと通信容量の履歴が一覧表示されます。表示された一覧の中から、IPアドレスを選択して接続することもできます。

ブロードバンドルータを使用している場合

DVRサーバーをインストールしているパソコンがブロードバンドルータ(以下ルータ)を経由してインターネットアクセスしている場合や、リモートビューアを実行する側のパソコンがルータを経由してインターネットアクセスしている場合、音声や動画が送受信できないという現象が生じることがあります。

外部からパソコンにアクセスする場合、相手先のパソコンのIPアドレスを指定するだけでなく、どのプログラムと通信するかを「ポート番号」を使用して指定する必要があります。ハイパーDVRでは映像用に TCP ポート「18082」と「18083」を、音声用に UDP ポート「18000」を使用しています。

またWebサーバーとして公開するため、TCP ポート「80」も使用します。(「80」は初期値です。DVRサーバーの設定画面の全般で、他のポート番号に変更できます。)ルータを経由して音声や動画が送受信できないという現象は、外部からこれらのTCP/UDPポートへアクセスがあったにも関わらず、どのパソコンにパケットを送ったらよいかルータ自身が判別できていないために発生しています。そのため、外部からのアクセスがルータを経由している場合、ポート番号をどのパソコンに割り当てるかIPアドレスを定義する作業(ポートフォワーディング)を、前もって行う必要があります。以下のようにルータの設定を変更して、ポートの割り当てを行って下さい。

<DVRサーバー側のルータ>

TCPポート: 80(または変更したポート番号) ----- プライベートIPアドレス※

TCPポート: 18082, 18083 ----- プライベートIPアドレス※

UDPポート: 18000 ----- プライベートIPアドレス※

※DVRサーバーをインストールしているパソコンのIPアドレスを設定して下さい。

<リモートビューア側のルータ>

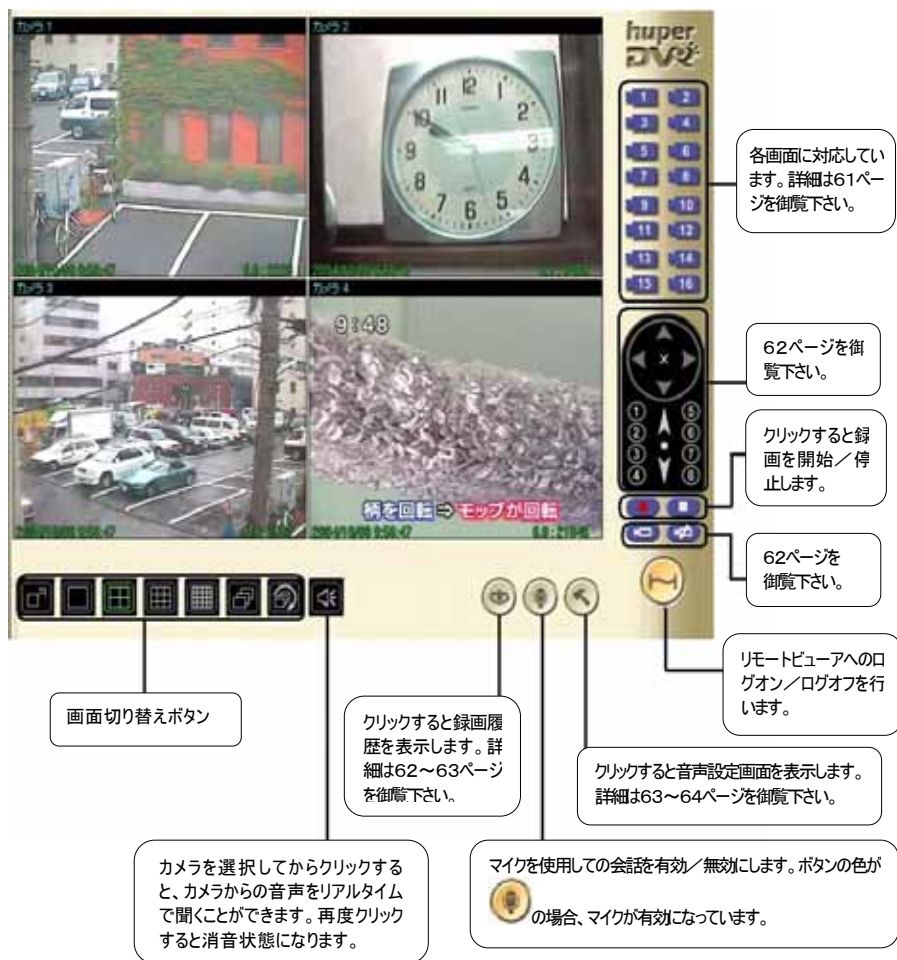
UDPポート: 18000 ----- プライベートIPアドレス(リモートビューアを実行するパソコンのIPアドレス)

※UDPポートは音声の送受信を行う場合のみ、変更が必要になります。



ルータの設定変更方法については、ルータのマニュアルを御覧になるか、各ルータのメーカーにお問い合わせ下さい。

リモートビューアメイン画面



分割画面

リモートビューアの各分割画面上には、カメラ名や現在のカメラの状況を表示内容が表示されます。分割画面はドラッグして他の場所へ移動することができます。分割画面表示時に、1つの分割画面をダブルクリックすると画面サイズを拡大します。元のサイズに戻す場合は右クリックして下さい。



左上のカメラの形をした各ボタンは、それぞれ各分割画面に対応しています。このボタンをクリックすることで、どの画面のカメラを制御するか選択することができます。対応する番号は右上の各分割画面のようになります。また、このボタンをクリックする代わりに、各分割画面をクリックすることでも同じように選択することができます。録画やPTZカメラの制御を行う場合は、初めにどの画面のカメラを制御するか選択する必要があります。

PTZカメラコントロールパネル

DVRサーバーに設置されているカメラがPTZカメラの場合、PTZコントロールパネルから、カメラのアンクル調整を行うことができます。PTZカメラを制御する場合は、画面右上のカメラボタンをクリックするか、表示画面をクリックすることによって、制御を行うカメラの選択を行ってから、アンクルの調整を開始することができます。

上下左右4個の矢印ボタンをクリックすることで、カメラアングルを調節できます。「×」ボタンをクリックすると、カメラの動きを停止します。



DVRサーバーで各数字ボタンにそれぞれカメラアングル/ポジションを設定している場合、ボタンをクリックすると、設定しているポジションにカメラアングルを移動します。

上向きの矢印をクリックするとズームインし、下向きの矢印をクリックするとズームアウトします。真ん中の「●」ボタンをクリックするとズーム比率を初期値に戻します。更にズームインしたい場合は、上向きの矢印をクリックし続け、更にズームアウトしたい場合は、下向きの矢印をクリックし続けます。

カメラ接続の変更

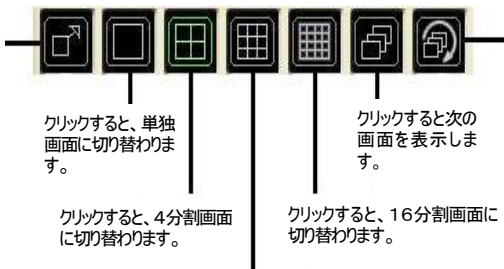
画面右上のカメラボタンをクリックするか、表示画面をクリックすることによって画面の選択を行ってから、このボタンをクリックすると、ログオン画面(56または58ページを御覧下さい)が表示されます。接続の「カメラ(C)」の右端の▼をクリックし、表示されたリストの中から、新しく表示するカメラ番号やリモートコントロールを選択することができます。



画面右上のカメラボタンをクリックするか、表示画面をクリックすることによって、接続を切るカメラをモニターしている画面を選択してから、このボタンをクリックすると、カメラの接続を切るすることができます。

画面切り替えボタン

クリックするとフル画面表示に切り替わります。フル画面表示中に、カーソルを画面下に移動すると画面切り替えボタンが表示されます。再度このボタンをクリックすると、通常のディスプレイに戻ります。



クリックすると、画面の表示を自動的にループ表示に設定します。


クリックすると、単独画面に切り替わります。

クリックすると、4分割画面に切り替わります。

クリックすると、16分割画面に切り替わります。

クリックすると、9分割画面に切り替わります。

録画履歴

リモートビューアはDVRサーバーからの映像を、ローカルハードディスクへ録画することができます。録画した内容を再生するには、 ボタンをクリックして録画履歴を表示し、再生する録画データを選択

択してから「再生」ボタンをクリックして下さい。再生用のWebページをオープンして、選択した録画データを再生することができます。「削除」ボタンをクリックすると、録画履歴で選択した録画データを削除します。

録画開始時間	録画時間	サーバー名	カメラ
03/05/20 15:09:50:00:00:07		ローカルサイト	カメラ1
03/05/20 15:10:30:00:00:19		ローカルサイト	カメラ1
03/05/20 15:11:00:00:01:24		ローカルサイト	カメラ1

再生

サイト名を表示します。

カメラ名を表示します。


再生中の録画データの日時を表示します。表示時間は、再生の経過に伴い、更新されます。


フレームレートとビットレートを表示します。

左から右へ、再生、一時停止、停止、前のフレーム、次のフレームとボタンが並んでいます。

再生画面を一時停止してからクリックすると、ビデオフレームをキャプチャして、JPEGファイルに保存することができます。再生状態のまま、キャプチャすることはできません。

音声設定

 ボタンをクリックすると音声設定画面が表示され、DVRサーバー側との音声のやり取りに関する設定を行うことができます。設定変更後、「OK」ボタンをクリックして下さい。設定を

変更すると、マイクを使用している会話が無効になります。再度、 ボタンをクリックして有効にする必要があります。

スライドタブをドラッグして、DVRサーバー側へ発信する音量を調整することができます。

スライドタブをドラッグして、DVRサーバー側からの音量を調整することができます。

クリックしマイクテストを行いながら、音声再生のボリュームを調整して下さい。マイクからの声がフィードバックして、音量の調整を行うことができます。



右端の▼をクリックすると音声デバイスの一覧が表示され、DVRサーバーへ音声を送信する際に使用するデバイスを、リストから選択できます。

右端の▼をクリックすると音声デバイスの一覧が表示され、DVRサーバーから音声を受信する際に使用するデバイスを、リストから選択できます。


右端の▼をクリックして、録音した内容を保存する場所を選択できます。
(初期設定では C:\WebCAM に保存されます。)

DVRサーバーが複数ある場合

DVRサーバーが複数ある場合、複数のDVRサーバーのモニタリングを一括して行うことができます。但し、この場合、リモートビュープログラムをインストールCDからインストールした場合に限ります。WEBブラウザ(IE)からリモートビューを起動した場合は、複数のDVRサーバーを一括してモニタリングすることはできません。操作は、モニタリングを行っている画面上から、他のDVRサーバーの映像を、カメラ1台ずつ選択してモニタリングします。手順は以下の通りです。



[操作手順]


- ① [スタート]→[プログラム(すべてのプログラム)]→[hyperDVR 2400-リモートビュー Vxxx]から[リモートビュー]をクリックしてリモートビューを起動し、まずDVRサーバー1台にログオンして下さい。
- ② 画面右上のカメラボタンをクリックするか、表示画面をクリックして、他のDVRサーバーのカメラからの映像をモニタリングする画面を選択して下さい。
- ③  ボタンをクリックすると、ログオン画面(58ページを御覧下さい)が表示されます。
- ④ 「DVRサーバーのIPアドレス(S):」に、現在ログオンしているDVRサーバー以外のDVRサーバーの固定グローバルIPアドレス、もしくはドメイン名を入力して下さい。
- ⑤ 「カメラ(C):」の横の▼をクリックして、モニタリングするカメラの番号を選択して下さい。

- ⑥ 「通信容量(D):」の横の▼をクリックして、通信容量タイプを選択してから、「ユーザーID」と「パスワード」を入力して「確定」ボタンをクリックして下さい。
- ⑦ 他のDVRサーバーからの映像を続けてモニタリングする場合は、前ページ②以降を繰り返して実行して下さい。最大16個までモニタリングできます。

リモートコントロール機能

リモートコントロール機能を使用することで、DVRサーバーをインストールしているパソコンを遠隔地からリモート操作することができます。

[操作手順]

- ① リモートビューアを起動して、リモートコントロールを行うパソコンにログオンして下さい。
- ② 画面右上のカメラボタンをクリックするか、表示画面をクリックして、リモートコントロールを実行する画面を選択して下さい。(バーが水色になります。)
- ③  ボタンをクリックすると、ログオン画面が表示されます。
- ④ 「カメラ(C):」の右の▼をクリックして、「コントロール」を選択して下さい。
- ⑤ 「通信容量(D):」の右の▼をクリックして、通信容量タイプを選択してから、「ユーザーID」と「パスワード」を入力して「確定」ボタンをクリックして下さい。
- ⑥ 以上で、DVRサーバーのパソコンをリモートコントロールすることができますようになります。



DVRサーバーが複数ある場合、モニタリングしているDVRサーバー以外のパソコンをリモートコントロールすることができます。この場合、リモートビューアはインストールCDからインストールしたプログラムで、リモートコ

ントロールされる側のパソコンはDVRサーバーがインストールされている必要があります。手順は前ページの[操作手順]を御覧下さい。ログイン画面が表示されたら、「DVRサーバーのIPアドレス(S):」にリモート操作を行う他のDVRサーバーの固定グローバルIPアドレス、もしくはドメイン名を入力して下さい。



リモートコントロールは管理者のみ実行可能です。但し、デフォルトの「administrator」では実行できませんので、必ず前もって管理者権限のあるユーザーを、別に用意しておく必要があります。

携帯電話からのモニタリング

携帯電話を使用して離れた場所からDVRサーバーの映像を、静止画像でのモニタリングが可能です。但し、携帯電話からのモニタリングはデフォルトでは無効になっていますので、LiveTag.ini の【DRAW_FRAME】セクションの OPEN キーを0から1に変更する必要があります。変更方法については、「付録 LiveTag.ini の設定について」を御覧下さい。対応機種は以下の通りです。

メーカー	対応機種
NTTドコモ	i-mode 携帯電話 (FOMA 対応機種を含む)
au/TuKa	EZWeb 携帯電話
ボーダフォン	J-SKY 携帯電話

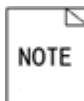
「i-mode」は「i-mode 契約」、「EZweb」は「EZweb サービス」のご加入が必要です。

<接続方法>

1. 携帯電話の種類に応じた方法で、DVRサーバーをインストールしているパソコンの固定グローバルIPアドレスもしくはドメイン名を直接入力して下さい。
2. 以下の画面が表示されます。カメラ番号 (Camera01～Camera16) を選択して、更新タイプ (No Refresh や1sec～30sec) を選択して、Send をクリック接続して下さい。



3. DVRサーバーからの映像を静止画像でモニターできます。
4. 他のカメラからの画像や更新した画像を表示したい場合は、Live View画面に戻ってカメラ番号を選択して、接続し直して下さい。



携帯電話からの静止画像でのモニタリングは、以下の点について制限があります。ご了承下さい。

- ① huperLabダイナミックIPを使用した場合、容量の関係上、携帯電話からのモニタリングは出来なくなっています。(NTTドコモの一部機種についてはアクセス可能であることを、弊社にて確認済みです。)
- ② 携帯電話からのモニタリングを有効にすると、DVRサーバーの画面の動きが若干スムーズでなくなります。
- ③ EZWebをご使用の場合、現在上記4の方法では画像を更新することができず、前回表示していた画像と同じ画像を表示してしまいます。更新した画像を表示したい場合は、1の操作から再び行つか、「更新」をクリックする等、機種に応じた対応を行う必要があります。
- ④ 携帯の機種によって、記載した手順と違う方法を行う必要がある場合があります。
- ⑤ 携帯の機種によって、画像の表示サイズが違う場合や、画像が見えなくなる場合があります。

第 8 章 リモートレコードプレイヤー

DVRサーバーから離れた場所にあるローカルのパソコンに、リモートビューアをインストール(前章を御覧下さい)することで、リモートレコードプレイヤーを実行できるようになります。リモートレコードプレイヤーでは、DVRサーバーで録画したデータをローカルのパソコンにダウンロードして、再生することができます。

起動方法

[スタート]→[プログラム(すべてのプログラム)]→[huperDVR 2400 - リモートビューアVxxx]から「リモートレコードプレイヤー」を起動します。

メイン画面

リモートレコードプレイヤーを起動すると、以下の画面が表示されます。



録画データのダウンロードおよび再生

ローカルのパソコンに、離れた場所にあるDVRサーバーが録画したデータをダウンロードして、その後再生することができます。録画データをダウンロードするには、DVRサーバーに正しくアクセスする必要があります。

ポート設定

設定ボタンをクリックすると、DVRサーバーに接続するためのポート設定画面が表示されます。



コマンドポート

DVRサーバーのコマンドポートを指定して下さい。

DVRサーバーポート

DVRサーバーのWebサーバーポートを指定して下さい。これはDVRサーバーの全般で設定したTCPポートの値と、同じである必要があります。

接続時間

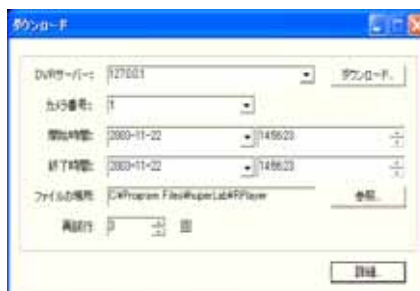
リモートレコードプレイヤーが接続を停止するまでの、DVRサーバーからの応答の待ち時間を設定することができます。

NOTE

コマンドポートとDVRサーバーポートはデフォルト値のご使用をお勧め致します。「デフォルト」ボタンをクリックすると、設定がデフォルト値に戻ります。

ダウンロード

「ダウンロード」ボタンをクリックすると、以下のようなダウンロード画面が表示されます。



DVRサーバー

DVRサーバーを「インストールしているパソコンのグローバルIPアドレスもしくはドメイン名を入力して下さい。以前にDVRサーバーにアクセスしている場合は、▼ボタンをクリックし表示されたリストの中から該当するものを選択して指定して下さい。

カメラ番号

ダウンロードを行うカメラの番号を指定して下さい。

開始／終了時間

ダウンロードを行う録画データの開始時間および終了時間を指定して下さい。

ファイルの場所

ダウンロードした録画データの保存先を、「参照」ボタンをクリックして選択して下さい。

再試行

最初のダウンロードに失敗した場合、再トライする回数を選択できます。

ダウンロード

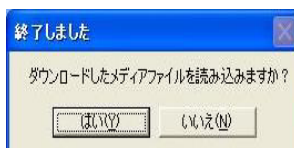
クリックすると録画データのダウンロードを開始します。

詳細

クリックすると、DVRサーバーに接続するためのポート設定画面が表示されます。

ダウンロード～再生手順

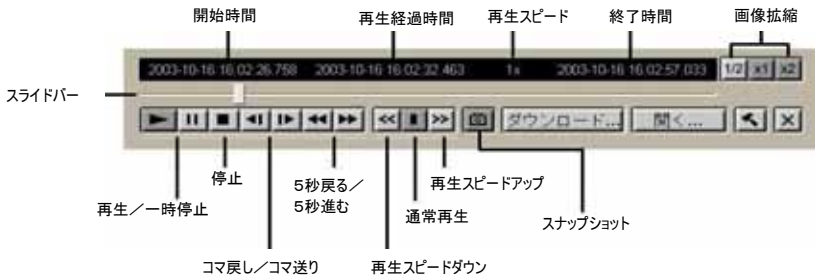
- ① ダウンロード画面上記の各設定を行って下さい。
- ② 「ダウンロード」ボタンをクリックすると、ダウンロードを開始します。
- ③ DVRサーバー側でアクセスの制御を行っている場合、ログオン画面が表示されユーザーIDとパスワードの入力を要求してきます。ユーザーIDとパスワードを入力してから「OK」ボタンをクリックして下さい。
- ④ ダウンロードの経過を表す画面が表示されます。
- ⑤ 以下の画面が表示され、「はい」ボタンをクリックすると、ダウンロードした録画データを読み込み、再生を行うことができるようになります。



- ⑥ 上記画面で「はい」ボタンをクリックした場合や、既にダウンロード済みの録画データを読み込む場合は「開く」ボタンをクリックして下さい。
- ⑦ ファイルを開く画面が表示され、ファイルの場所を指定しオープンする録画データを選択してから「開く」ボタンをクリックして下さい。ダウンロード済みの録画データを読み込み、再生を行うことができるようになります。

ナビゲーションパネル

リモートレコードプレイヤーのメイン画面下に表示されるナビゲーションパネルは、以下の通りです。



開始時間

ダウンロードした録画データの開始時間を表示します。

再生経過時間

再生中の録画データの経過時間を表示します。

再生スピード

再生中のスピードを表示します。

終了時間

ダウンロードした録画データの終了時間を表示します。

画像拡縮

再生中の画面のサイズを1/2もしくは2倍にすることができます。

スライドバー

バーをスライドして録画ビデオの任意の部分に、ジャンプすることができます。

再生/一時停止

録画データを再生/一時停止します。

停止

録画データの再生を停止します。

コマ戻し/コマ送り

前/次のコマを表示します。

5秒戻る/5秒進む

再生している録画データを5秒戻し/進みます。

再生スピードダウン

クリックすると、再生スピードを落とすことができます。通常再生の1/2xのスピードから最大1/32xまで、スピードを落とすことができます。

通常再生

再生スピードを通常のスピードに戻します。

再生スピードアップ

クリックすると、再生スピードを上げることができます。通常再生の2倍のスピードから最大32倍まで、スピードを上げることができます。

スナップショット

次ページを御覧下さい。

スナップショット

ダウンロードした録画データの再生画面を一時停止、もしくは停止状態にして、ナビゲーションパネルの「スナップショット」ボタンをクリックすると以下の画面が表示され、画像をキャプチャしてbmpファイルとして保存することができます。



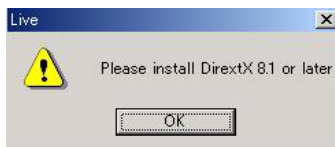
第9章 Q & A

Q1 DVRサーバーを起動しても映像が写りません。

A1 以下の項目をご確認下さい。

- ① 使用するカメラの設定が正しくされているかご確認ください。
- ② アクセスの制御を行うにチェックを入れているかご確認ください。チェックを入れている場合、カメラに対して割り当てたユーザーの権限を、ログオンしたユーザーの権限が上回っていないと映像が映りません。(ログオンユーザーとカメラに割り当てたユーザーの関係は39ページを御覧下さい。)
- ③ ご使用になられているVGAカードにYUV→RGB色空間変換機能がない場合、設定画面の全般の「スムーズ表示」のチェックを外して、ソフトウェア側で色空間変換を行うようにする必要があります。

Q2 DVRサーバー起動時に以下のエラーメッセージが表示されました。



A2 ご使用されているパソコンに、DirectXがインストールされていないか、DirectX8.1より以前のバージョンがインストールされていることが考えられます。huperDVRのインストールCDをCD-ROMドライブにセットし、表示された以下の画面からDirectX 8.1のインストールをクリックして手順に従って、インストールを行って下さい。再起動後、上記のエラーメッセージは表示されなくなります。



Q3 DVRサーバー上では画像が表示されていませんが、録画を再生すると画像が表示されています。


A3 ご使用されているVGAチップの性能に問題がある可能性があります。以下の手順を実行して下さい。

1. DVRサーバーを終了して下さい。
2. プログラムフォルダにある「Live.ini」を開いて下さい。ハイパーDVRインストール時にインストール場所を指定しなかった場合は、C:\Program Files\huperLab\huperDVR 2400\Binにあります。

3. 「HUPERRENDER=1」を「HUPERRENDER=0」に修正して下さい。
4. 変更した「Live.ini」を保存して下さい。
5. DVRサーバーを起動して下さい。

Q4 Hyper-Threadingを搭載したパソコンを使用しているにも関わらず、DVRサーバーの単独画面で画像を表示すると、スムーズに表示されません。

A4 ご使用されているパソコンのCPUの使用率が、100%近くになっていないかご確認ください。そうでない場合はDVRサーバーを終了し、BIOS画面を呼び出して「Hyper Threading Technology」という項目を「Disable」にして下さい。

Q5 設定ボタン  をクリックしても設定画面が表示されません。

A5 管理者、もしくはオペレーターの権限でログオンしているかご確認ください。マネージャー、ユーザーの権限でログオンしている場合は設定の変更はできません。

Q6 DVRサーバー ログオン画面が表示され、ユーザーIDとパスワードを入力しても「アクセス権がありません」と表示され、ログオンできません。

A6 ユーザーIDはAdministrator (Aは大文字、以降小文字)、パスワードは何も入力しないで「確定」ボタンをクリックすると、ログオンできると思います。この初期設定のユーザーIDやパスワードを修正してしまい、且つお忘れになってしまった場合は、ハイパーDVRをアンインストールして下さい。アンインストール後、C:\Program FilesにあるhuperLabというフォルダを、サブフォルダも含めて全て削除してから、再インストールを実行して下さい。アンインストール後、このフォルダを削除しないで再インストールすると、アクセスの制御を行うという記録が残っているため、DVR起動時にまたログオン画面が表示されてしまいますので、ご注意ください。

Q7 DVRサーバーを終了できません。

A7 DVRサーバーでアクセスの制御を行っている場合、セキュリティ上の理由から管理者以外の権限では電源オフができないようになっています。管理者権限でログオンしてからDVRサーバーを終了して下さい。

Q8 1つ目のキャプチャカードを付けた時は問題なかったのですが、2つ目を付けるとDVRマシンがブートしなくなりました。

A8 PCIカードの衝突が原因である可能性があります。最初にマザーボードからネットワークカードとサウンドカードを取り外してから、再起動して下さい。(ネットワークチップやサウンドチップがオンボードのマザーボードの場合は、BIOS設定でそれらをOFFにして下さい。)この対応方法で問題が解決した場合は、マザーボードとPCIカードの互換性が良くないことを意味します。DVRマシンを使用するにあたって、ネットワークとオーディオの機能が不要な場合はこのマザーボードを使用し続けることができますが、そうでない場合は別のマザーボードを用意して頂く必要があります。

- Q9 録画容量の目安を教えてください。
- A9 カメラ数、解像度、圧縮形式、フレームレート、録画方法に影響されます。選択した録画方法によっては、被写体の動きにも影響されます。

<参考例>

弊社環境で、カメラ1台を画像解像度640×480、高速圧縮、フレームレート30fps、ノンストップ録画で録画した場合、1時間の録画で約0.2GBでした。この状態で24時間録画すると、約4.8GBになります。カメラ複数台を同時に録画する場合は、台数分を掛けて計算する必要があります。但し、あくまで参考データですので、環境によって異なりますことを御了承下さい。

- Q10 DVRサーバーをインストールしているパソコンはファイアウォールで保護しています。リモートビューアを実行するのに、どのTCPポートをオープンする必要がありますか？

- A10 リモートビューアを実行してDVRサーバーを見るには、TCPポートの80、18082、18083をオープンする必要があります。通話を行う場合は18000もオープンする必要があります。

- Q11 DVRマシンはLAN上にあり、プライベートIPアドレスを割り当てています。このような環境でインターネットを通して外部からDVRマシンをリモートモニタリングすることはできますか？

- A11 可能です。DVRマシンがブロードバンドルータを経由して、インターネットアクセスするようなLAN環境では、ハイパーDVRが使用しているポート番号とDVRマシンのプライベートIPアドレスとを、定義する作業(ポートフォワーディング)を行う必要があります。詳細については54ページの「ブロードバンドルータを使用している場合」を御覧下さい。

- Q12 リモートからDVRサーバーの映像が見ることができません。

- A12 以下の項目をご確認下さい。

- ① DVRサーバー上でWEBブラウザを起動し、<http://127.0.0.1>と入力して下さい。リモートビューア画面が表示され、映像が表示されるかご確認下さい。
- ② 同一LAN内のPC上でWEBブラウザを起動し、DVRサーバーのローカルアドレスを入力して下さい。リモートビューア画面が表示され、映像が表示されるかご確認下さい。
- ③ ダイナミックIPを使用されている場合、DVRサーバーの「設定 > 全般」画面の「ダイナミックIPを使用」にチェックが入っているかご確認下さい。また、その設定に間違いがないかも同時にお確かめ下さい。
- ④ ドメイン名を使用されている場合、コマンドプロンプトを開き、「nslookup ドメイン名」と入力し「Enter」して下さい。現在振り当てられているグローバルIPが正しく表示され、ドメイン名→IPアドレスが解決されていることをご確認下さい。
- ⑤ 上記Q10の内容をご確認下さい。
- ⑥ ブロードバンドルータを経由した環境にDVRサーバーがある場合、ポートフォワーディングを行っていることをご確認下さい。(詳細は54ページ「ブロードバンドルータを使用している場合」をご覧ください。)

- Q13 リモートビューアでスムーズなライブ映像を見るには、インターネット帯域幅は何bpsくらいが必要になるでしょうか？

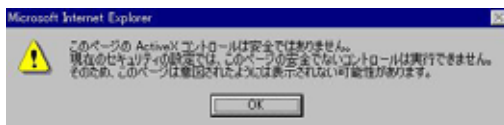
- A13 リモートビューアがモニターするビデオフレームが320x240の場合、通常15Kビットになります。表示レートが5fpsで4台のカメラからの画像をモニタリングする場合、少なくとも15 Kビット×4 カメラ × 5 fps =

300K bps の帯域幅が必要となります。またDVRサーバーをインストールしているパソコン側にも同様に、十分な帯域幅が必要となります。

Q14 リモートビューアの起動時に以下のようなメッセージが表示されました。

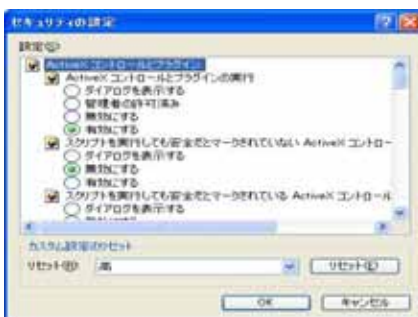


A14 リモートビューアの起動時に、上記のメッセージや以下のようなメッセージが表示された場合は、Internet Explorerのセキュリティ設定を変更する必要があります。



設定の変更は以下の通りです。

- ① Internet Explorerを起動して「ツール」→「インターネットオプション」をクリックして下さい。
- ② インターネットオプションの設定画面が表示されますので、「セキュリティ」タブをクリックして、Webコンテンツにインターネットを選択してから「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして下さい。
- ③ 「セキュリティの設定」画面が表示されますので、以下のように設定して下さい。
 - ・ ActiveXコントロールとプラグインの実行 → 有効にする
 - ・ スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveXコントロールの実行 → 有効にする
 - ・ 署名済みActiveXコントロールのダウンロード → ダイアログを表示する
 - ・ アクティブスクリプト → 有効にする



Q15 DVRサーバーにリモートアクセスしようとしたら、工事中の画面が表示されました。



A15 インターネット インフォメーション サービスの既定のWebサイトが開始されていると、PORTが重複しているため、リモートビューアの起動時に上記のようなメッセージが表示されます。対応方法としては「既定のWebサイト」を停止するか、もしくはPORTを変更するか2通りの方法があります。ここでは「既定のWebサイト」を停止する方法を、以下に記述します。

- ① [スタート]→[コントロールパネル](Windows2000の場合は、[スタート] →[設定] →[コントロールパネル])とクリックして、「管理ツール」アイコンをクリックして下さい。
- ② 管理ツール画面で、「インターネット インフォメーション サービス」をクリックして下さい。

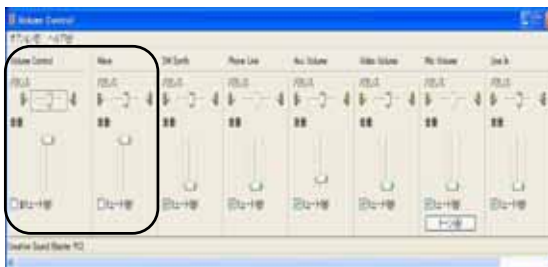


- ③ 「インターネット インフォメーション サービス」が表示されたら、ローカルコンピュータWebサイト - 既定のWebサイトを右クリックして、「停止」をクリックして下さい。



Q16 リモートビューアを実行するとDVRサーバーをモニタリングできますが、通話できません。
A16 以下の項目をご確認下さい。

- ① リモートビューアを実行しているパソコンにもグローバルIPアドレスが割り当てられているかご確認下さい。通話機能ではUDP/IPプロトコルを使用するため、DVRサーバー及びリモートビューアを実行するパソコン共にグローバルIPアドレスが必要となります。
- ② ヘッドセットのボリュームを上げて下さい。
- ③ PC本体、または外部スピーカーの音量ボリュームを上げて下さい。
- ④ ポリュームコントロール*を開き、「Volume Control」(Windows2000では「Master Volume」と「Wave」の音量を上げて調節して下さい。この2つの項目に関しては「ミュート」にチェックを入れないで下さい。(下図をご参考下さい。))

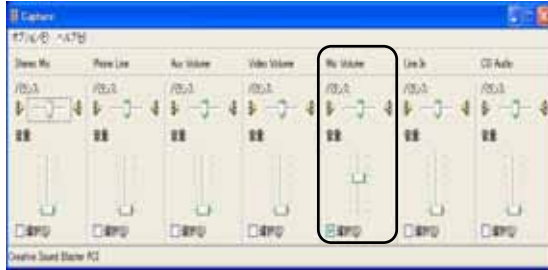


* Windowsのタスクトレイにある、スピーカーのアイコンをダブルクリックすることで開くことができます。スピーカーアイコンがタスクトレイにない場合は、[スタート]→[プログラム(すべてのプログラム)]→[アクセサリ]→[エンターテインメント]→[ボリュームコントロール]をクリックして開くことができます。

- ⑤ ポリュームコントロール画面から「オプション」→「プロパティ」をクリックして下さい。音量の調整で「録音」を選択し、「OK」をクリックして下さい。



- ⑥ 「Mic Volume」(Windows2000は「Microphone」)をクリックし選択して、音量を上げて調節して下さい。



Q17 DVRサーバーとリモートビューア間で通話を行うと、自分の声が聞こえて話し難い。
 A17 お使いになられているサウンドカードの問題である場合と、ボリュームコントロールの設定の問題である場合が考えられます。ボリュームコントロールの場合、通話を行っている相手の「Mic Volume」(Windows2000は「Microphone」)の音量の上がり過ぎが原因で発生しています。通話を行っている相手の音量を調節して下さい。(調節方法は前述のA14を御覧下さい。)

Q18 他社のリモートコントロールユーティリティを使用して、DVRマシンをリモートコントロールできますか？
 A18 他社のリモートコントロールユーティリティがWindowシステムを不安定にする可能性がありますので、DVRマシンにリモートコントロールユーティリティをインストールすることはお薦めできません。但し、問題解決のために一時的にリモートコントロールユーティリティをインストールする場合は、その限りではありません。

Q19 DVRマシンが「COMポートを使用できない」というメッセージを表示しました。
 A19 I/OボックスのデバイスドライバがDVR起動中にCOMポートの有効性をチェックします。

現在、COMポートが他のユーティリティによって使用されているか、COMポートが使用不可の場合、I/Oボックスデバイスドライバは上記のメッセージを表示します。以下の手順でI/Oボックスデバイスドライバを削除して下さい。

1. DVRサーバーを終了して下さい。
2. ファイル「i7k_iorw.dll」の名前を変更するか削除して下さい。(ハイパーDVRインストール時にインストール場所を指定せずにデフォルトでインストールした場合は、「C:\Program Files\huperLab\huperDVR 2400\Bin」にあります。)
3. DVRサーバーを再起動して下さい。

Q&Aは、弊社ホームページ<http://www.huperdvr.jp/faq.htm>上で随時、更新しております。その他の最新情報も更新しておりますので、御覧下さい。

付録 1 LiveTag.ini の設定について

設定について

DVRサーバーの設定は、お客様のハードウェア環境やご使用になられる製品によって設定を変更した方が良い場合があります。これらの設定はLiveTag.iniというファイルで定義されています。ハイパーDVRをインストール後、このファイルを変更してお客様のお使いやすようにカスタマイズすることができます。

ファイルの場所について

LiveTag.iniは、ハイパーDVRのプログラムのフォルダ内にあります。インストール場所を変更せず、デフォルトのままインストールを行った場合は、(システムドライブがCドライブの場合)
C:\ProgramFiles\huperLab\huperDVR 2400\Binというフォルダ内に存在します。

各設定について

修正を行う前に各キーについて、以下に一つずつ説明します。

1. 【SYSTEM】セクション

キー名	初期値	説明
Field_sync	1	キャプチャカードがフィールド同期対応の場合は有効(1)、対応していない場合は無効(0)にして下さい。フィールド同期対応でないキャプチャカードで設定を有効にすると、フリーズする可能性があります。
Smart_Saving_interval	1	切り替え録画時のフレームレートを設定することができます。切り替え録画中の動作を感知していない間に、指定して下さい。1が1fps、2が0.5fps等。
Quick_display_Format	1	スムーズ表示を有効(1)／無効(0)にします。ビデオカードが原因で画像が正しく表示されない場合、最新のビデオカードドライバにアップデートするか、スムーズ表示を無効にして下さい。
NORESPONSETIME	130	ハードウェアのウォッチドッグがシステム停止を検知した場合に、コンピュータを再起動するまでの秒数を指定できます。
BCSOFT	1	カメラの明るさ、コントラストのソフトウェアでの調整を有効(1)／無効(0)にします。

2. 【DROP_FIELD】セクション

キー名	初期値	説明
CHIP01—CHIP16	0	1秒間に落とすフレーム数を指定できます。数値を上げるとフレームレートは下がり、動きが鈍く見えるようになりますが、画質は落ちません。初期値は0で、最大30まで指定できますが、0のままお使い頂く事をお薦めします。

3. 【FRAME_RATE】セクション

キー名	初期値	説明
CHIP01—CHIP16	30	各BT878チップのフレームレートの取り込み時の最大値を指定できます。初期値では30fpsになっています。

4. 【COMPRESSOR_FAST】セクション (HuperMedia高速圧縮)

キー名	初期値	説明
GOP	30	GOP値を指定できます。数値を大きくすると、データサイズは小さくなりますが、画質は落ちます。
QP	7	QP値を指定できます。数値を小さくすると、画質は良くなりますが、データサイズは大きくなります。
Serch_level	1	動作感知方法を指定できます。1を指定すると、動作感知スピードは速くなりますが、データサイズは大きくなります。2を指定した場合は、データサイズは小さくなりますが、動作感知スピードは遅くなります。

5. 【COMPRESSOR_GOOD】セクション (HuperMedia通常圧縮)

キー名	初期値	説明
GOP	30	GOP値を指定できます。数値を大きくすると、データサイズは小さくなりますが、画質は落ちます。
QP	7	QP値を指定できます。数値を小さくすると、画質は良くなりますが、データサイズは大きくなります。
Serch_level	2	動作感知方法を指定できます。1を指定すると、動作感知スピードは速くなりますが、データサイズは大きくなります。2を指定した場合は、データサイズは小さくなりますが、動作感知スピードは遅くなります。

6. 【COMPRESSOR_BEST】セクション(HuperMedia高品位圧縮)

キー名	初期値	説明
GOP	30	GOP値を指定できます。数値を大きくすると、データサイズは小さくなりますが、画質は落ちます。
QP	5	QP値を指定できます。数値を小さくすると、画質は良くなりますが、データサイズは大きくなります。
Serch_level	2	動作感知方法を指定できます。1を指定すると、動作感知スピードは速くなりますが、データサイズは大きくなります。2を指定した場合は、データサイズは小さくなりますが、動作感知スピードは遅くなります。

7. 【MODEL_RECORDING_RATE】セクション

キー名	初期値	説明
Enable	0	本セクションの修正を有効(1)／無効(0)にします。
M04S	30	HuperDVR2404Sのフレームレートの初期値を指定できます。
M08S	30	HuperDVR2408Sのフレームレートの初期値を指定できます。
M12S	30	HuperDVR2412Sのフレームレートの初期値を指定できます。
M16S	30	HuperDVR2416Sのフレームレートの初期値を指定できます。
M04D	30	HuperDVR2404Dのフレームレートの初期値を指定できます。
M08D	30	HuperDVR2408Dのフレームレートの初期値を指定できます。
M12D	30	HuperDVR2412Dのフレームレートの初期値を指定できます。
M16D	30	HuperDVR2416Dのフレームレートの初期値を指定できます。
M04Q	30	HuperDVR2404Qのフレームレートの初期値を指定できます。
M08Q	30	HuperDVR2408Qのフレームレートの初期値を指定できます。
M12Q	30	HuperDVR2412Qのフレームレートの初期値を指定できます。
M16Q	30	HuperDVR2416Qのフレームレートの初期値を指定できます。

8. 【AUDIO_FORMAT】セクション

キー名	初期値	説明
SAMPLE	8000	オーディオサンプリングレートを指定します。初期値は8KHzです。
BIT	8	サンプル解像度を指定します。8ビットもしくは16ビットを選択できます。

9. 【MEILDIMENSION】セクション(メール通知時の画像添付)

キー名	初期値	説明
ATTACH_PICTURE	1	動作感知時のメール通知における画像の添付(1)／未添付(0)を指定します。
XDIMENSION*	80	添付画像のサイズ(幅)を指定できます。設定値は16の倍数に限ります。
YDIMENSION*	80	添付画像のサイズ(高さ)を指定できます。設定値は16の倍数に限ります。

* ここで設定したサイズは、以下の携帯電話からのモニタリングのサイズにも反映します。但し、携帯電話会社によって、サイズを大きくし過ぎることで画像を受け取れない場合がありますので、ご注意ください。

10. 【DRAW_FRAME】セクション(携帯電話からのモニタリング)

キー名	初期値	説明
OPEN	0	携帯電話からDVRサーバーのモニタリングを有効(1)／無効(0)にします。

付録 2 Live.ini の設定について

設定について

DVRサーバーの設定は、お客様のハードウェア環境やご使用になられる製品によって設定を変更した方が良い場合があります。これらの設定はLive.iniというファイルで定義されています。ハイパーDVRをインストール後、このファイルを変更してお客様のお使いやすいうようにカスタマイズすることができます。

ファイルの場所について

Live.iniは、ハイパーDVRのプログラムのフォルダ内にあります。インストール場所を変更せず、デフォルトのままインストールを行った場合は、(システムドライブがCドライブの場合)
C:\ProgramFiles\huperLab\huperDVR 2400\Binというフォルダ内に存在します。

各設定について

修正を行う前に各キーについて、以下に一つずつ説明します。
8Q,16Qを使用する場合、320*240の画像を録画設定しています。
もし、640*480の画像へ変更したい場合、
LIMIT_RESOLUTION = 1 をLIMIT_RESOLUTION = 0 に変更してください。

付録3 Server.ini の設定について

設定について

DVRサーバーの設定は、お客様のハードウェア環境やご使用になられる製品によって設定を変更した方が良い場合があります。これらの設定はServer.iniというファイルで定義されています。ハイパーDVRをインストール後、このファイルを変更してお客様のお使いやすようにカスタマイズすることができます。

ファイルの場所について

Server.iniは、ハイパーDVRのプログラムのフォルダ内にあります。インストール場所を変更せず、デフォルトのままインストールを行った場合は、(システムドライブがCドライブの場合)
C:\ProgramFiles\huperLab\huperDVR 2400\Binというフォルダ内に存在します。

各設定について

修正を行う前に各キーについて、以下に一つずつ説明します。
AU携帯電話へ動画送信する設定。下記のところを追加してください。

例

[EVENT]

MailFrom=demopc@huperdvr.jp

MailTo=0fw16-2f725022f@ezweb.ne.jp

■サポートはメールにて受け付けております。

service@gfj.co.jp

サポートにはユーザー登録が必要です。

24時間受け付けておりますが、弊社定休日送信されたメールや、お問い合わせが殺到している場合は回答が遅れることがあります。

あらかじめ御了承下さい。

最新情報は弊社ホームページを御覧下さい。

HuperDVR 2400 Ver1.5

ユーザーマニュアル

2004年12月 初版発行

日本語版マニュアル制作

発売元・製品サポート

株式会社グリーンフラッシュジャパン

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-2-3 西村ビル2F

TEL 03-5775-2585 FAX 03-5775-2586

URL <http://www.gfj.co.jp>

E-mail service@gfj.co.jp
